

コロナ後における若者の 旅行客を対象とした マーケティング提言

2024年1月 濱岡豊研究会22期 慶應義塾大学商学部3年 中野裕太

目次

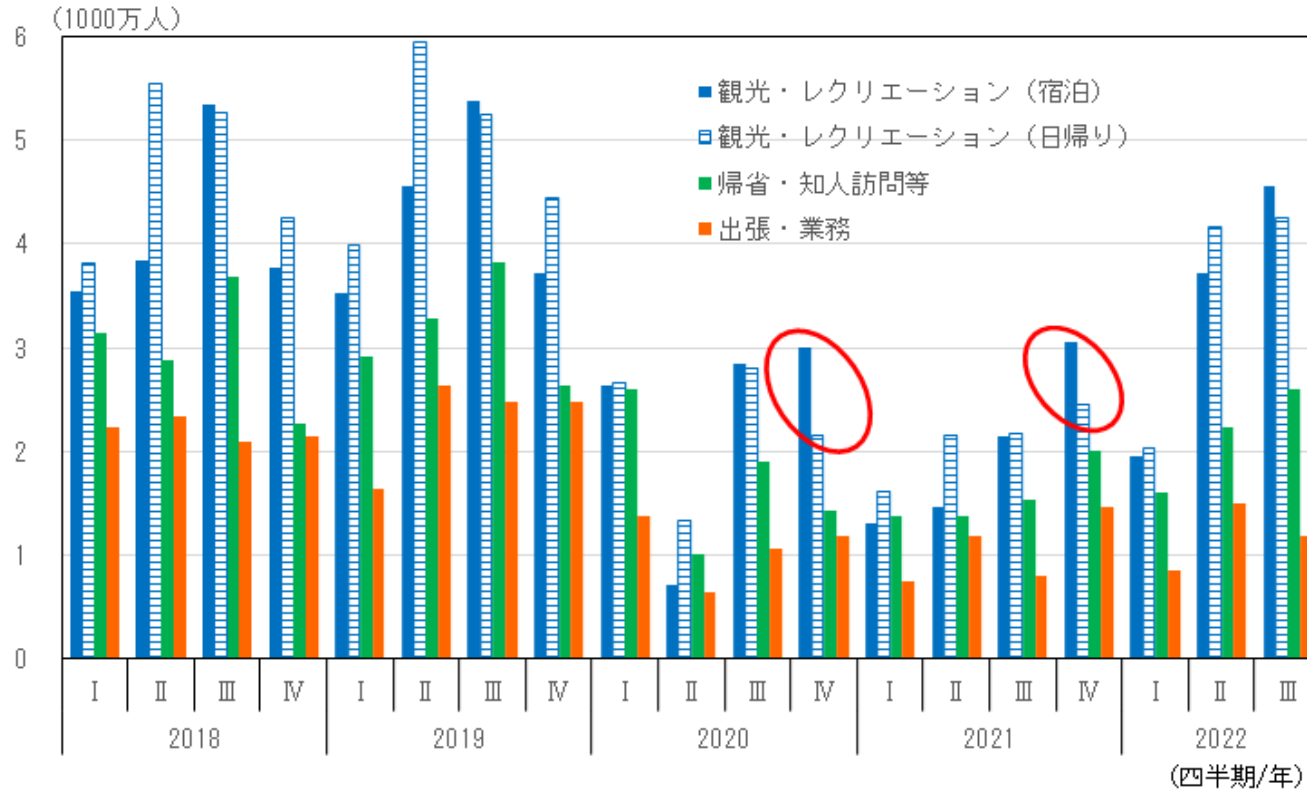
目次

1. 研究の背景
2. 仮説
3. 4ヶ国全体の分析
4. 日本における分析
5. 日本とそれ以外の3カ国の比較
6. 分析のまとめ
7. 提言
8. 研究の課題
9. 謝辞
10. 参考文献

研究の背景

二次データ

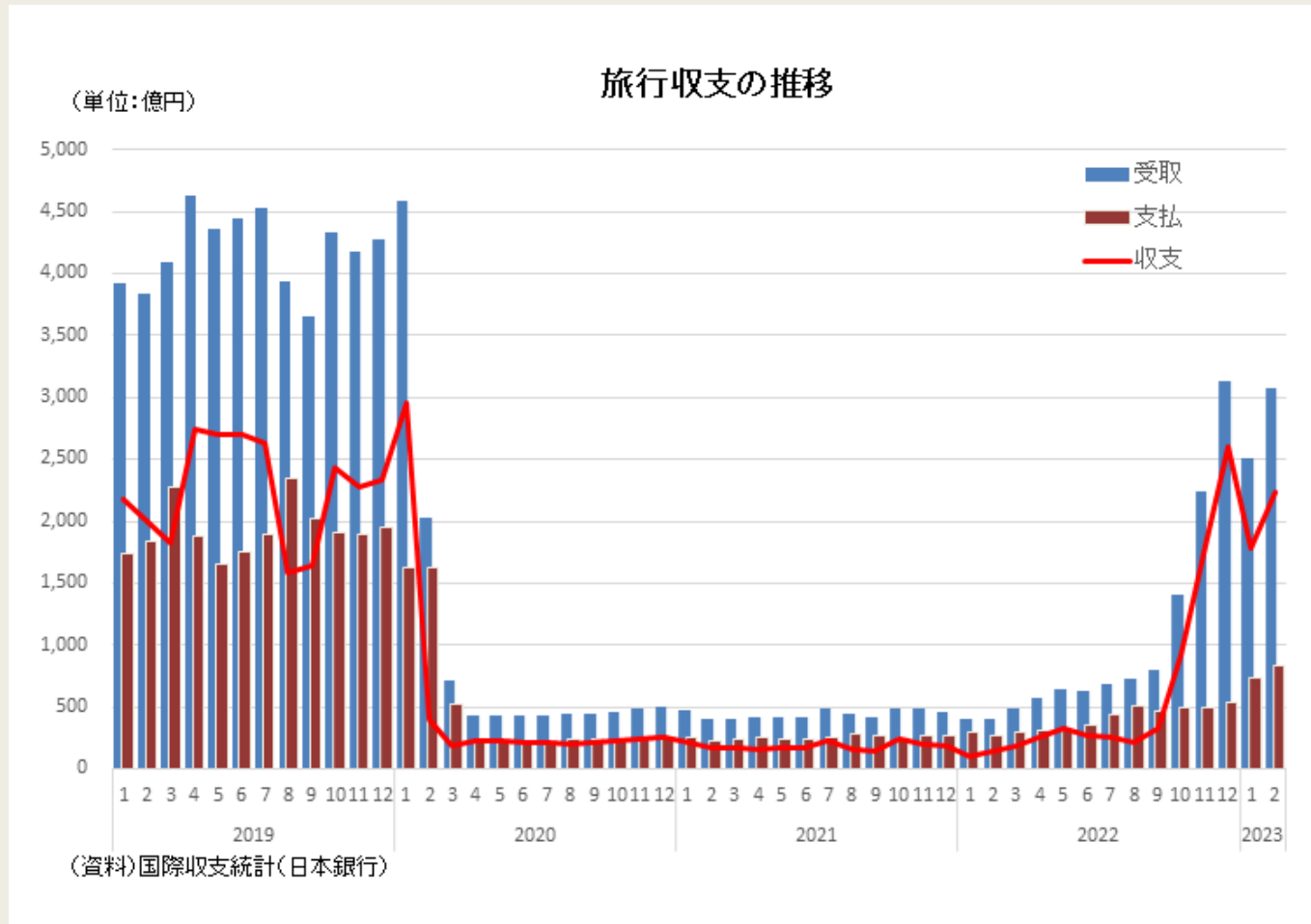
＜旅行目的別＞日本人国内旅行者数（延べ）の推移



(資料) 旅行・観光消費動向調査 (観光庁)、2022年第3四半期は速報値

国内旅行者数は回復してきてはいるものの、2018年や2019年と比べて未だに少ない状態にある。

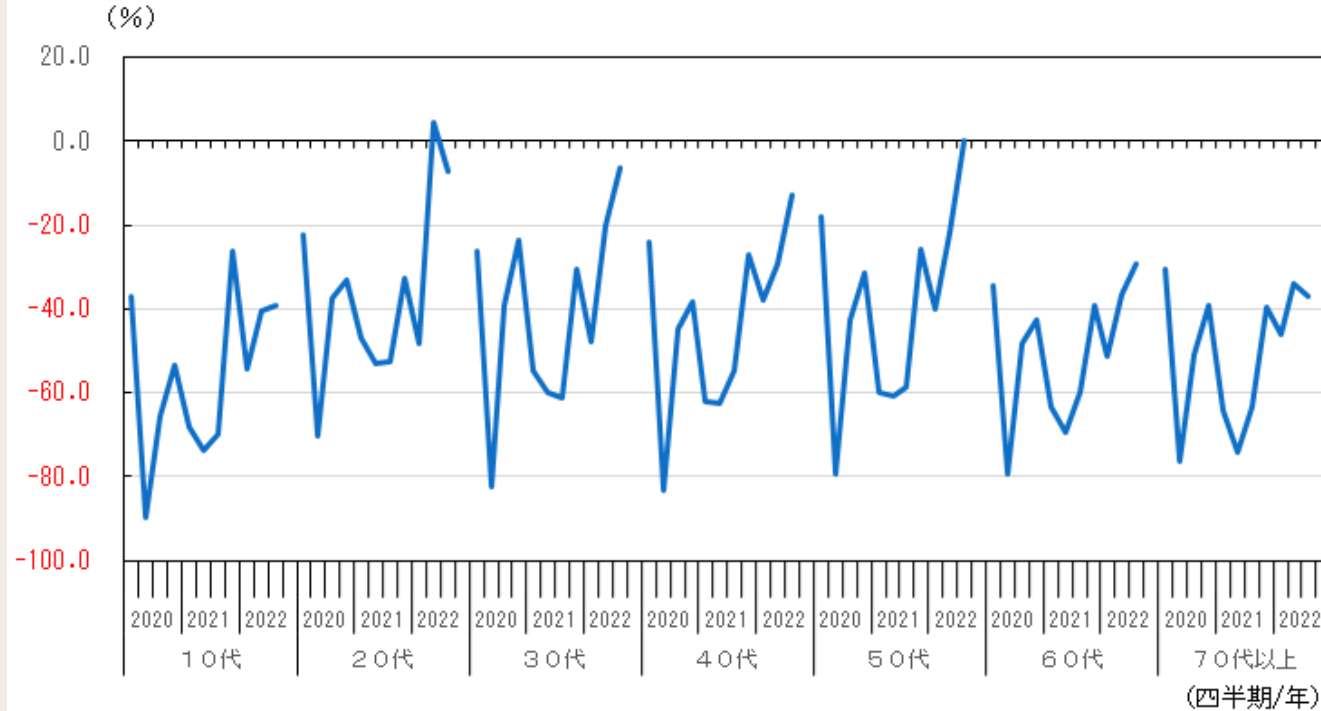
二次データ



受取（外国人の日本での支出）は急激に増加しているが、支払（日本人の海外での支出）は回復していない。

二次データ

＜年代別＞日本人国内旅行者数（延べ）の推移（2019年比）



(資料) 旅行・観光消費動向調査（観光庁）より作成、2022年第3四半期は速報値
宿泊旅行（観光・レクリエーション）、日帰り旅行（観光・レクリエーション）を集計

20代は最も回復が進んでいる。一方で、60代以上はいまだにマイナス20%を下回っている。

二次データを踏まえて

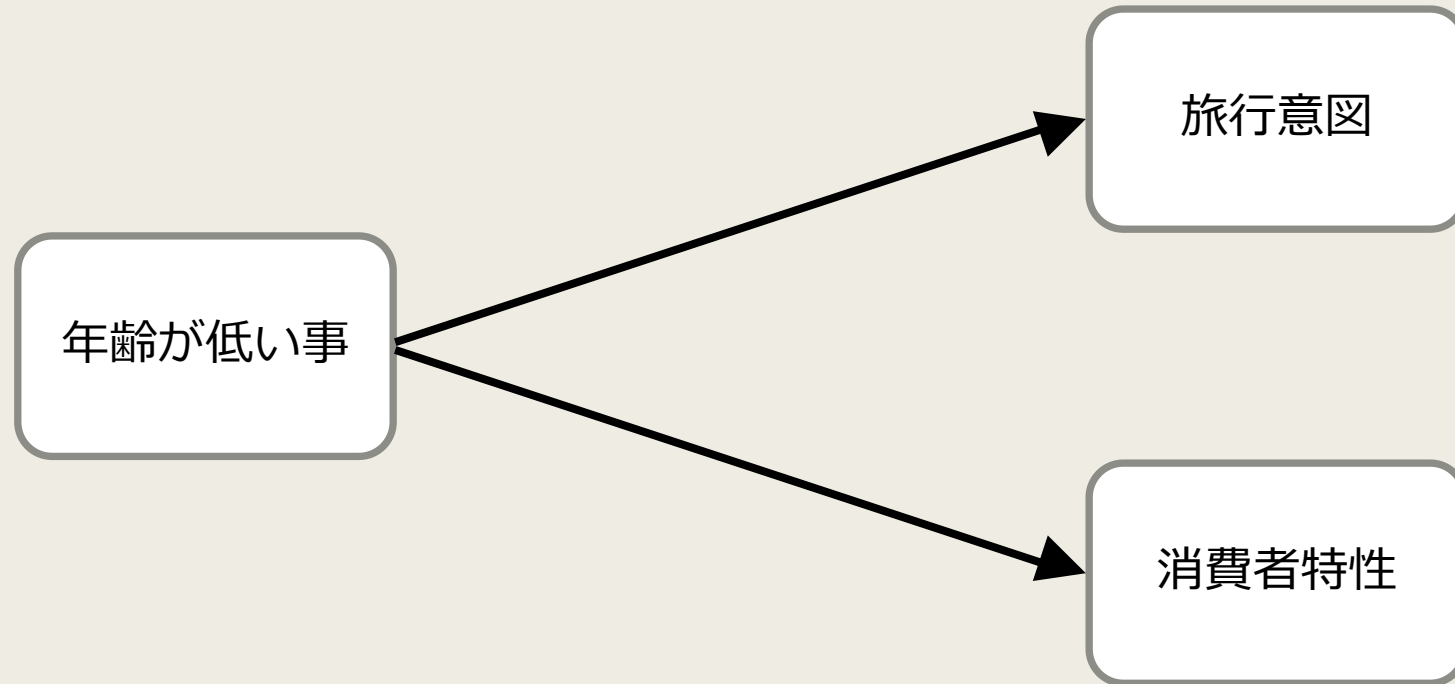
コロナ禍を経て、旅行者は以前と比べて少ない状況にある。その中で、20代に関しては旅行者の回復が最も早く、回復を牽引している印象を受けた。このことから、20代の旅行者をさらに増やすことで、他の年代の旅行需要を喚起することが出来るのではないかと考えた。

使用するデータセット・研究目的

- 本研究では、GluckstadとF. Kによる「ポスト・コロナ危機におけるリスク認識、態度、体験に費やす行動意図：イタリア、デンマーク、中国、日本のデータ」（2022）というデータセットを使用する。
- コロナ禍を経験した中で、若者の旅行意図や消費者特性に関する傾向を明らかにし、その結果から得られる洞察をもとに日本の旅行業界に対する提言を行うことを目的とする。
- 分析の流れとしては、まず4ヶ国全体の分析を行い、そして日本と日本を除いた3カ国に関して分析を行う。

仮説

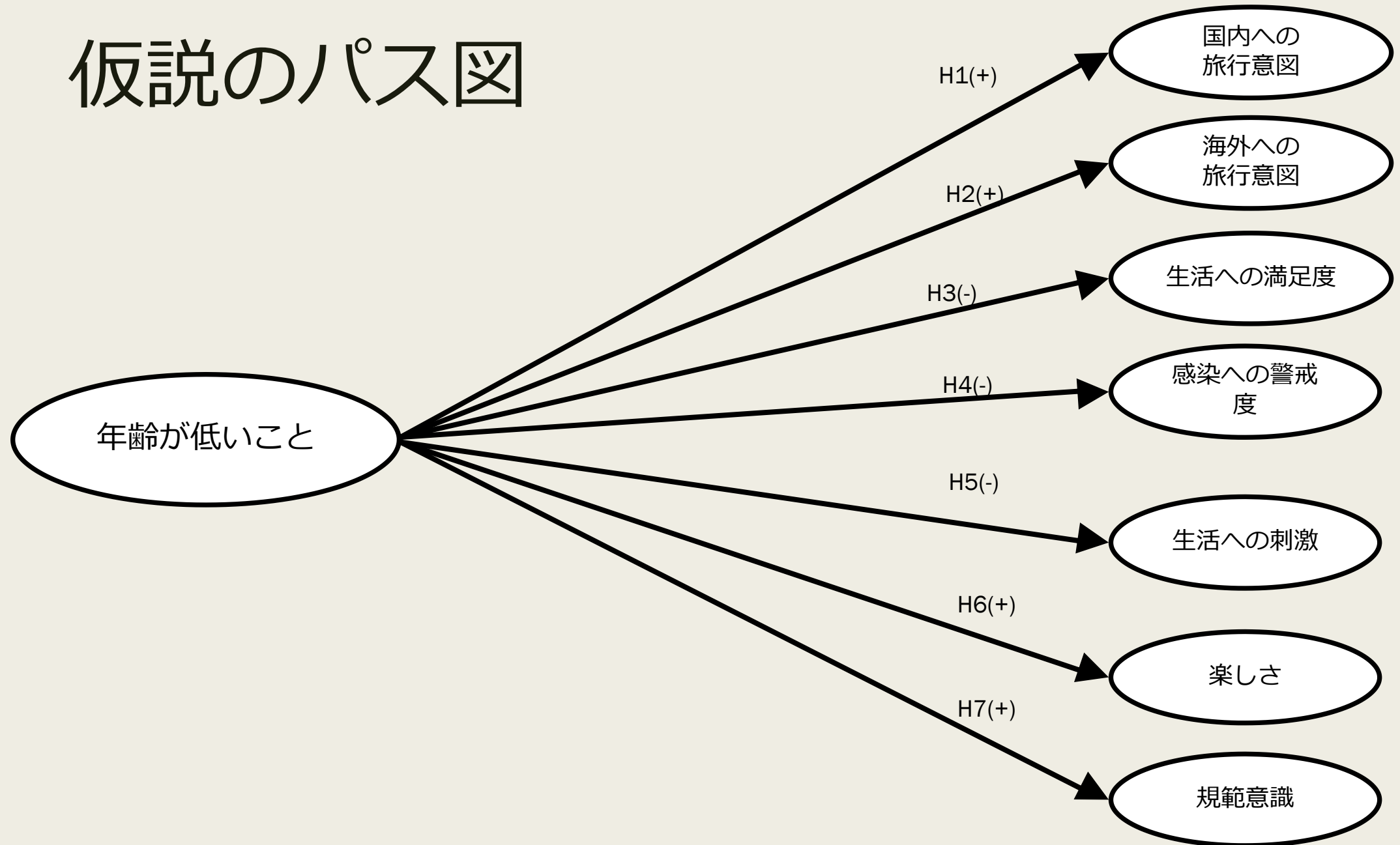
仮説の枠組み



仮説

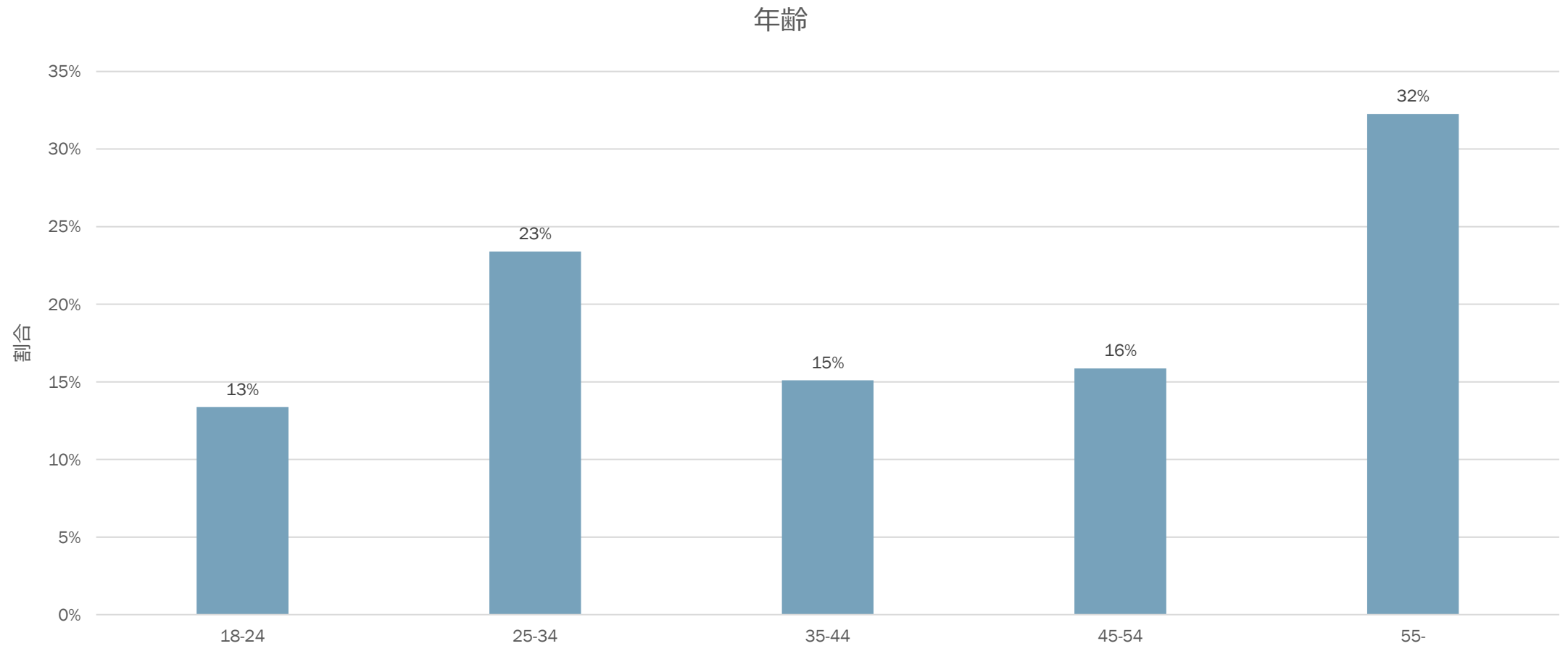
仮説番号	仮説内容	質問番号
H1(+)	年齢が低い事と国内への旅行意図には正の相関がある	Q22_2_1
H2(+)	年齢が低い事と海外への旅行意図には正の相関がある	Q10-4
H3(-)	年齢が低い事と生活の満足度には負の相関がある	Q6
H4(-)	年齢が低い事と感染への警戒度には負の相関がある	q10_2
H5(+)	年齢が低い事と生活に刺激を求める事には正の相関がある	Q5a_2
H6(+)	年齢が低い事と楽しさを求める事には正の相関がある	Q5a_5
H7(-)	年齢が低い事と規範意識には負の相関がある	Q5b_1

仮説のパス図

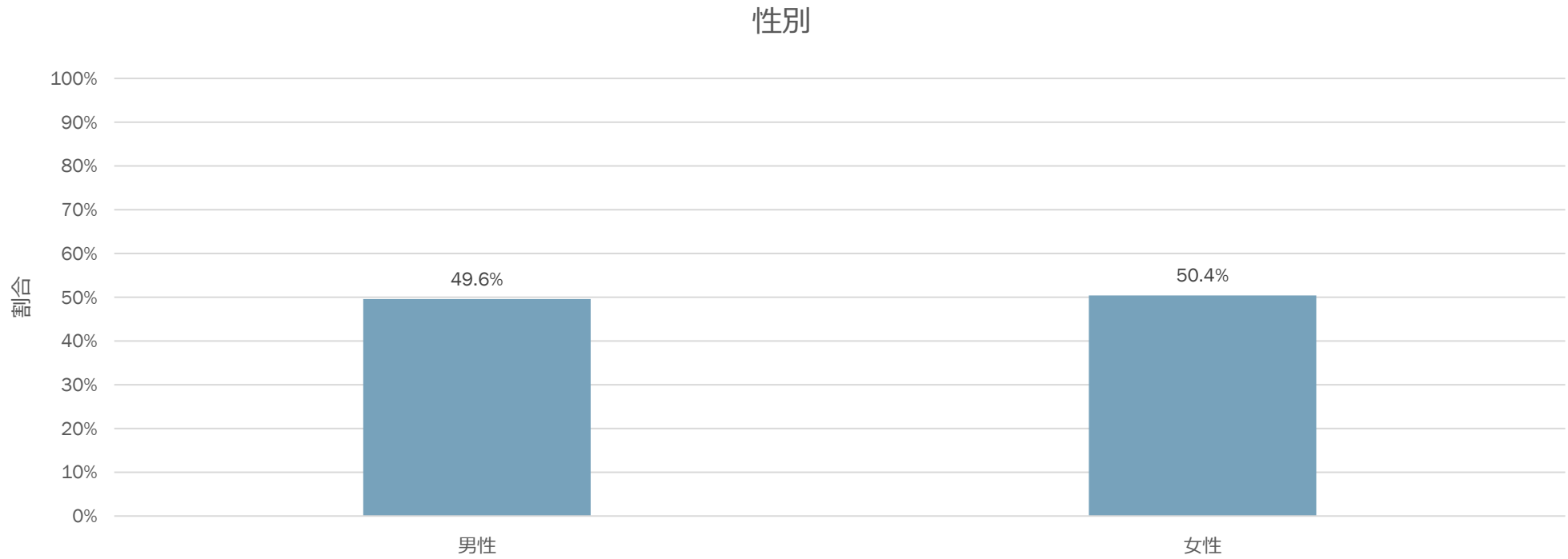


4ヶ国全体の分析

単純集計

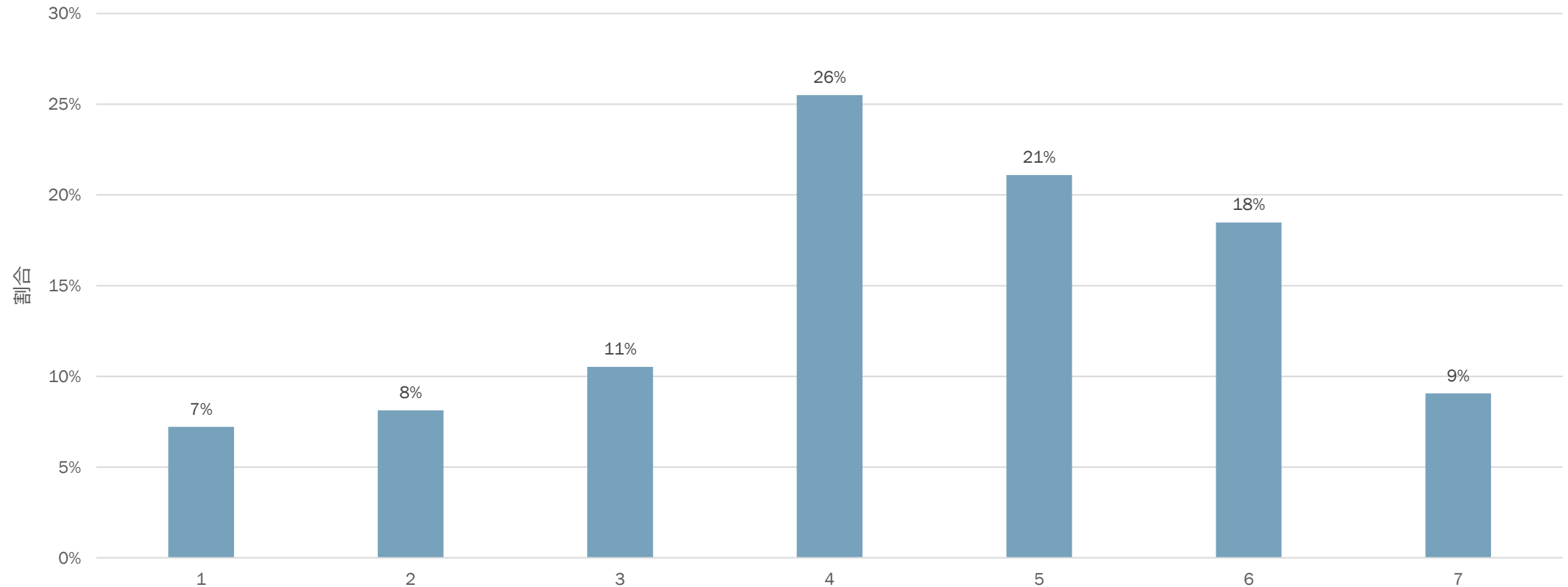


単純集計



単純集計（旅行意図）

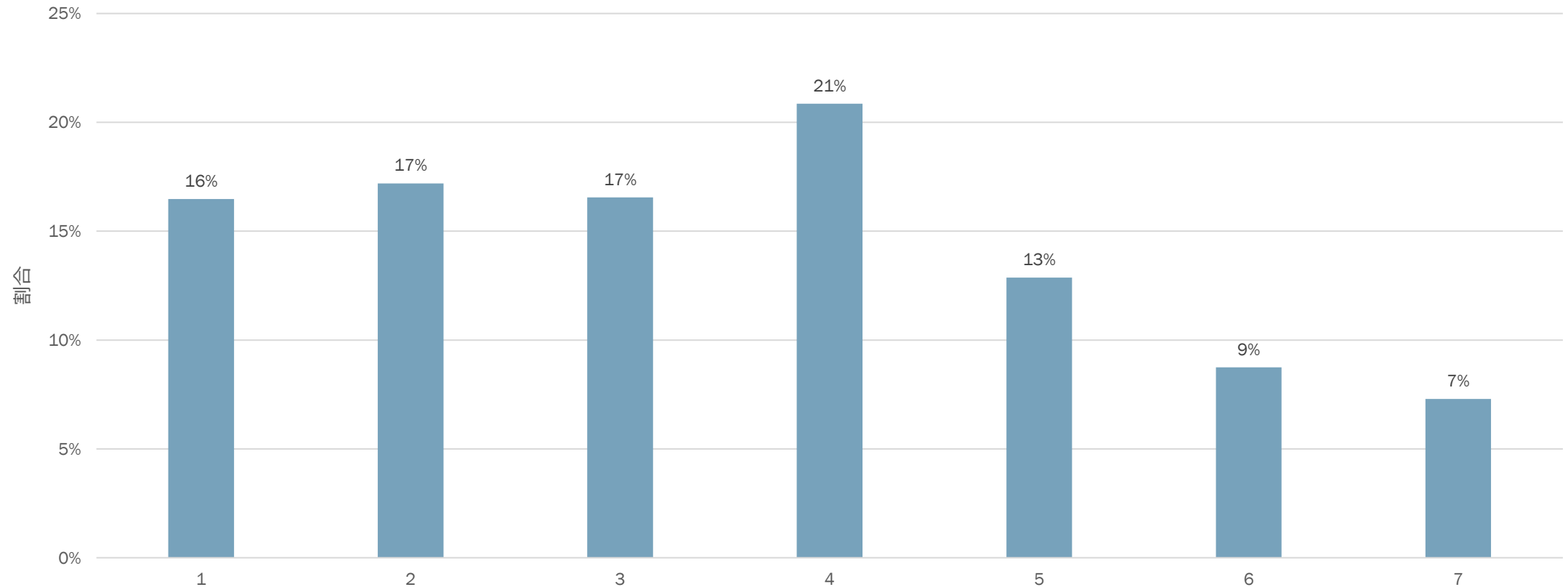
変換期にレジャー目的で国内を旅行するつもりだ



尺度（高いほどよくあてはまる） 以降同様

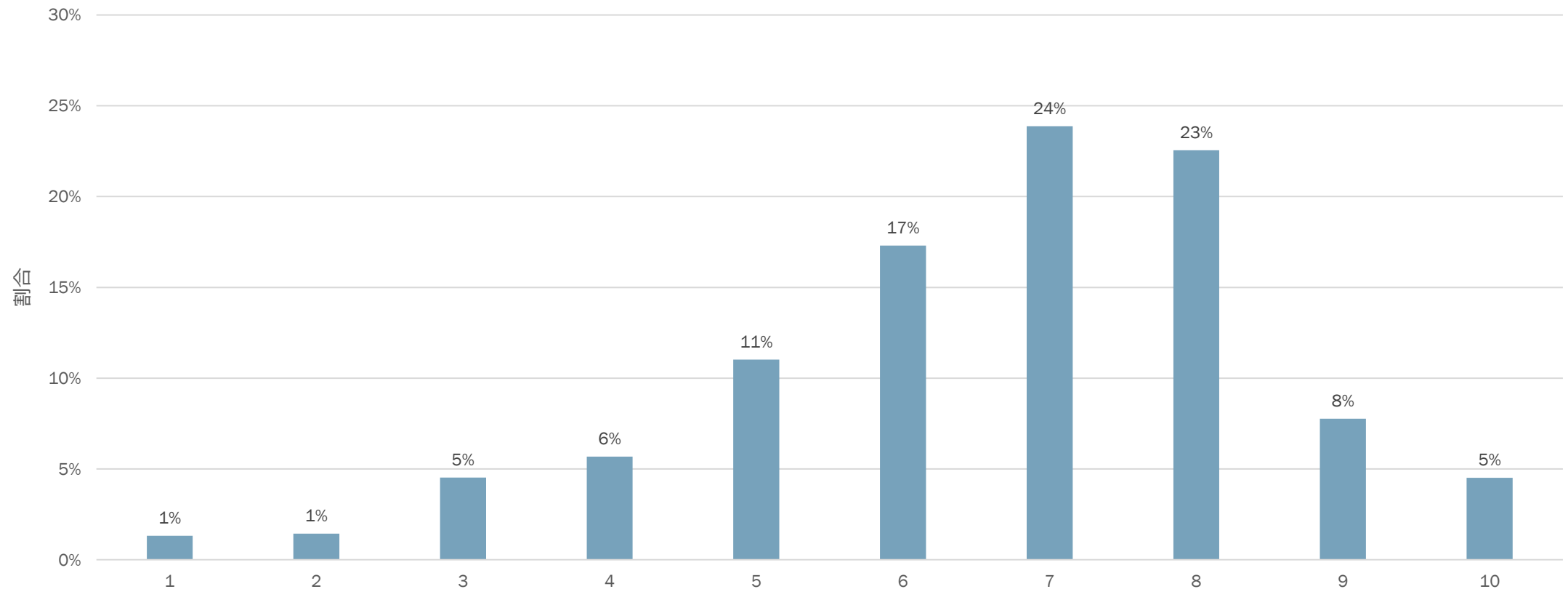
単純集計（旅行意図）

新型コロナによる渡航中止勧告が解除されたらすぐに海外に渡航するだろう



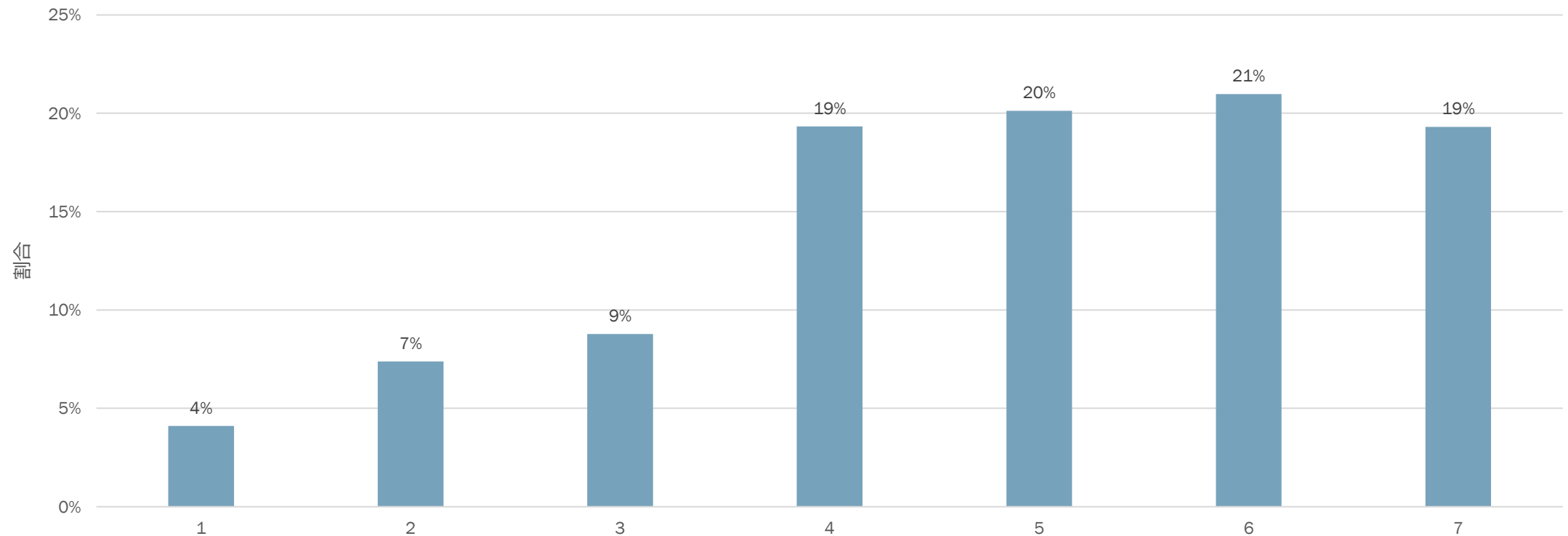
単純集計（消費者特性）

近頃のあなたの生活についてどのくらい満足していますか？



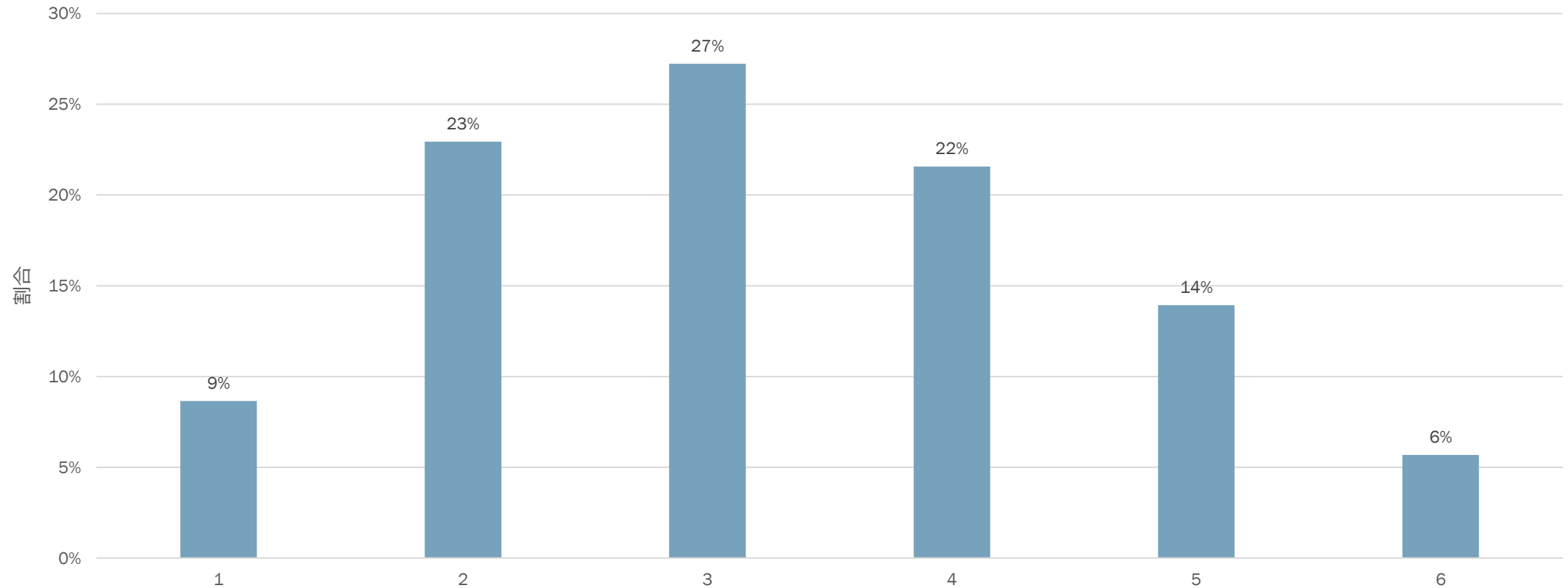
単純集計（消費者特性）

新型コロナウイルスの感染を避けるため、公共交通機関を利用することを避け、別の方法で移動する、または移動した



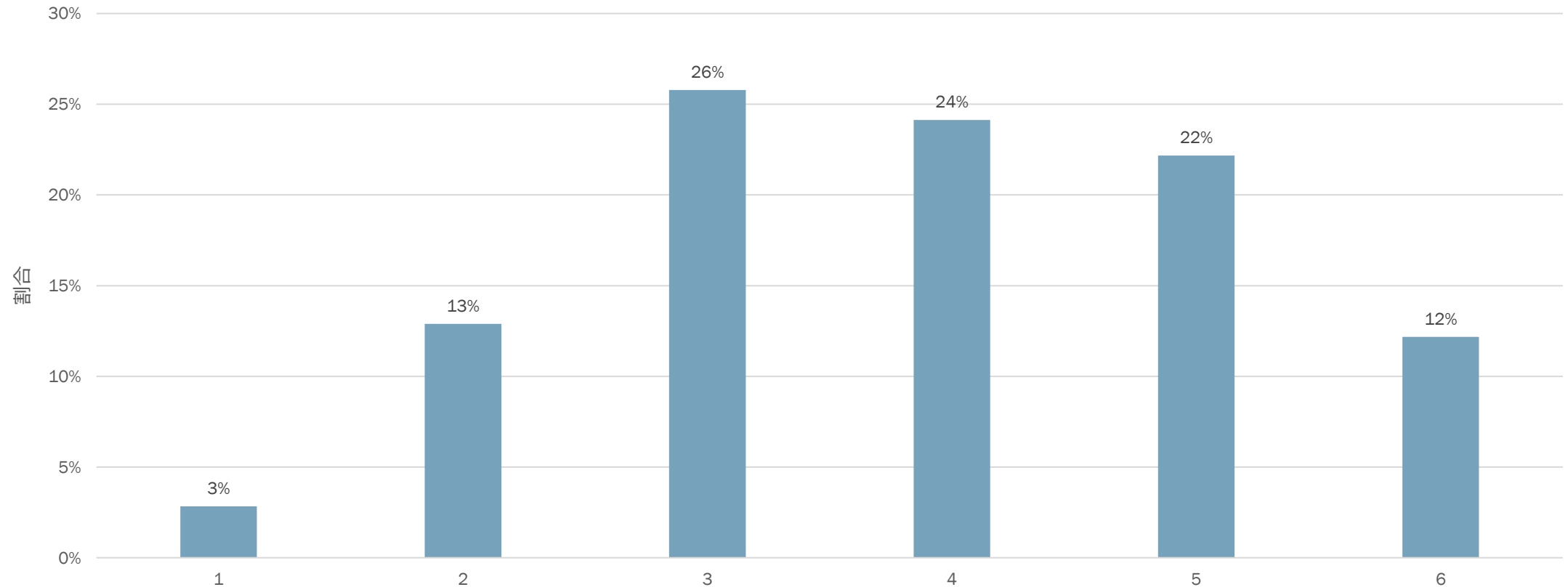
単純集計（消費者特性）

刺激のある生活が大切な人



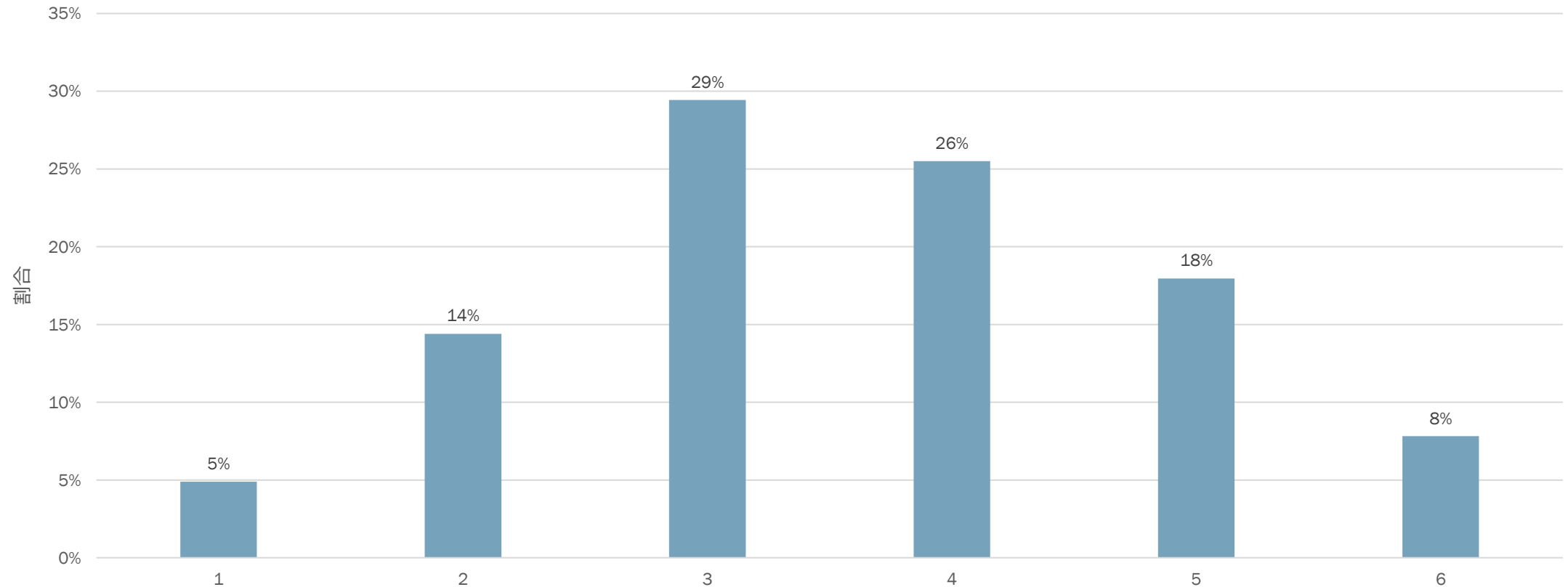
単純集計（消費者特性）

楽しい時間を過ごすこと、自分を「甘やかす」ことが大切な人



単純集計（消費者特性）

定められたルールに常に従うことが大切な人



共分散構造分析

	Estimate	Std.Err	Z-value	P(> Z)	Std.lv	Std.all
国内への旅行意図	0.012	0.017	0.714	0.476	0.011	0.011
海外への旅行意図	0.033	0.019	1.729	0.084	0.027	-0.022
生活への満足度	-0.115	0.020	-5.849	0.000	-0.090	-0.121
感染への警戒度	-0.006	0.018	-0.340	0.734	-0.005	-0.038
刺激を求める事	0.265	0.014	19.463	0.000	0.289	0.243
楽しさを求める事	0.209	0.014	15.437	0.000	0.232	0.160
規範意識	-0.009	0.014	-0.690	0.490	-0.011	-0.028

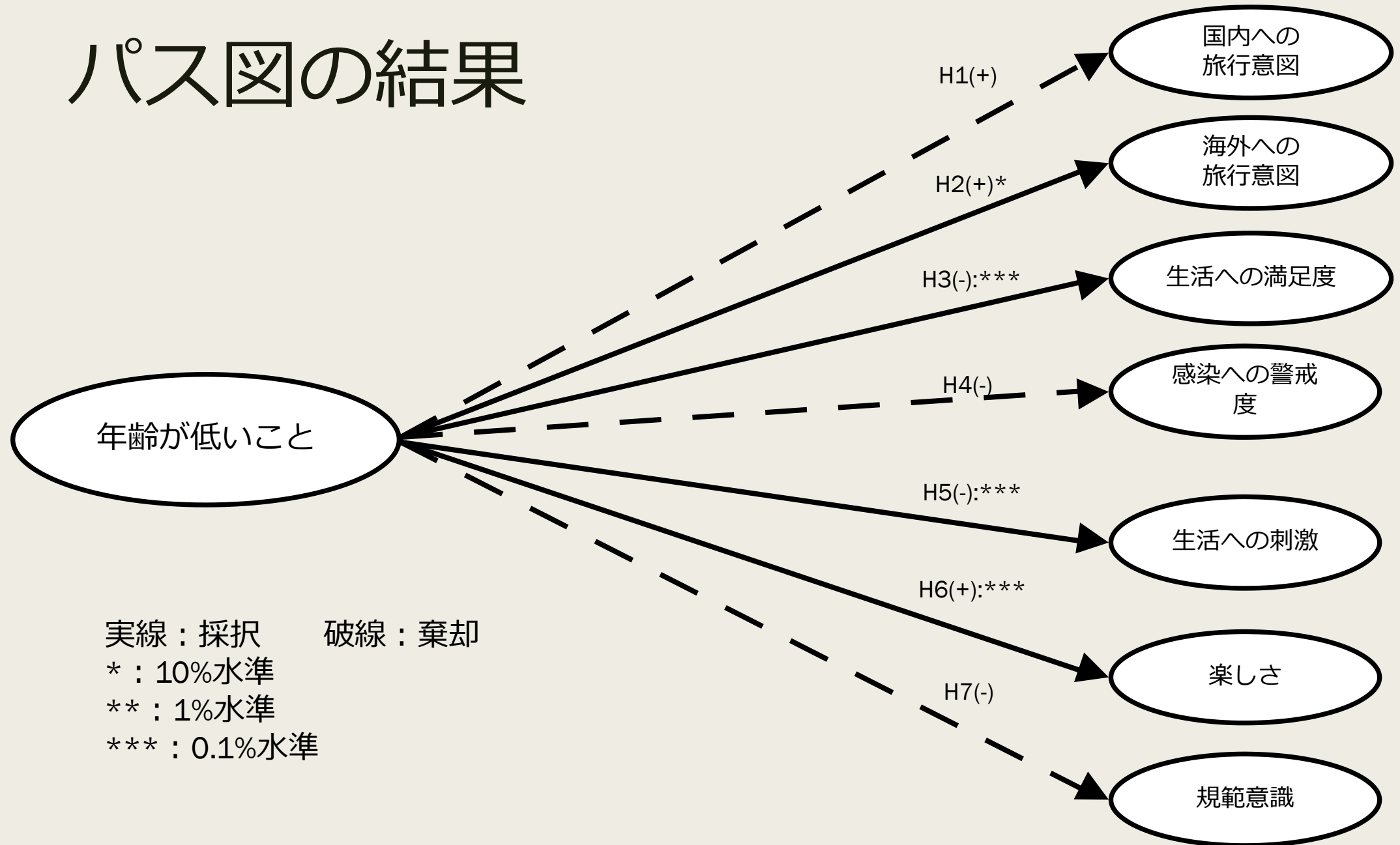
※表の1列目は、若さを説明変数とした被説明変数となっている

N=4172,CFI=1.000,AIC=120745.047,BIC=120973.148,RMSEA=0.000,SRMR=0.000

検定結果

仮説番号	仮説内容	検定結果
H1(+)	年齢が低い事と国内への旅行意図には正の相関がある	棄却
H2(+)	年齢が低い事と海外への旅行意図には正の相関がある	採択(10%水準)
H3(-)	年齢が低い事と生活の満足度には負の相関がある	採択(0.1%水準)
H4(-)	年齢が低い事と感染への警戒度には負の相関がある	棄却
H5(+)	年齢が低い事と生活に刺激を求める事には正の相関がある	採択(0.1%水準)
H6(+)	年齢が低い事と楽しさを求める事には正の相関がある	採択(0.1%水準)
H7(-)	年齢が低い事と規範意識には負の相関がある	棄却

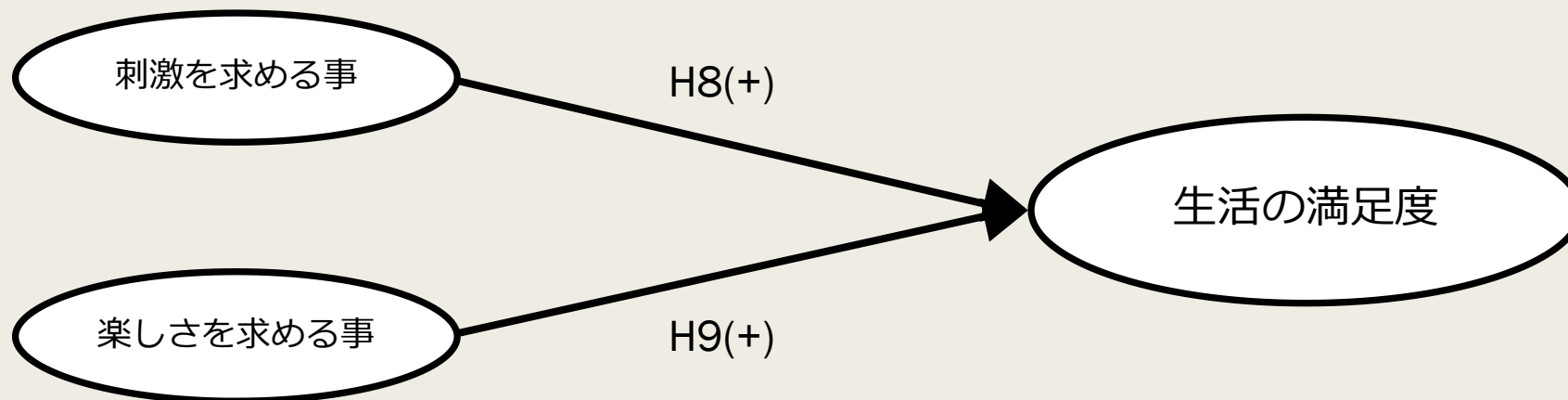
パス図の結果



追加検証・パス図

- 刺激や楽しさと生活の満足度に正の相関があれば、旅行が持つそれらの面をアピールしていくことが効果的であると言える

仮説番号	仮説内容
H8(+)	生活に刺激を求める事は生活の満足度と正の相関がある
H9(+)	生活に楽しさを求める事は生活の満足度と正の相関がある



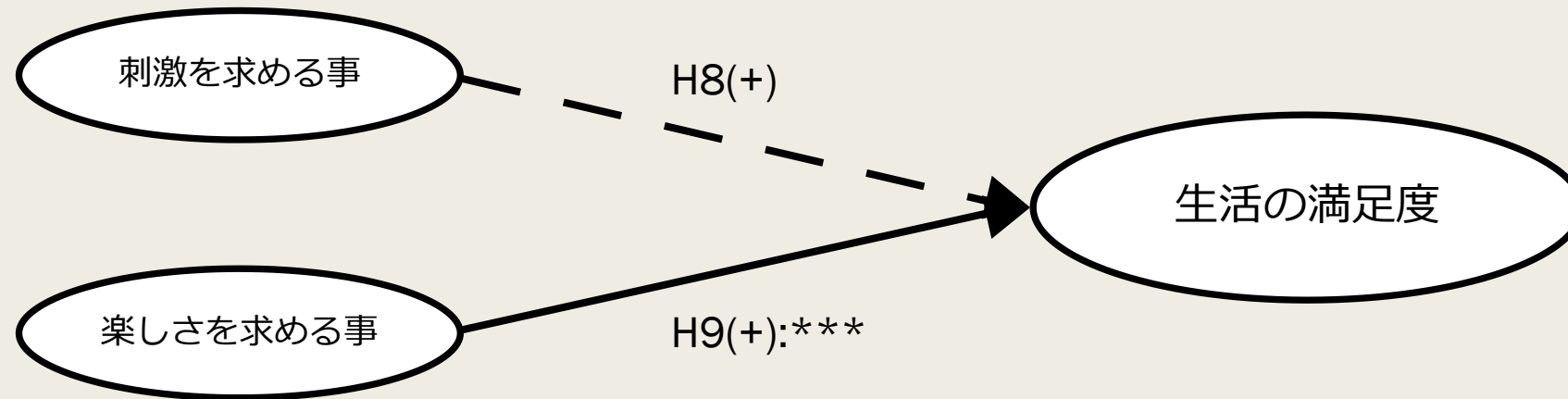
共分散構造分析・検定結果

	Estimate	Std.Err	Z-value	P(> Z)	Std.lv	Std.all
刺激を 求める事	0.027	0.024	1.144	0.253	0.019	0.019
楽しさを 求める事	0.195	0.024	8.032	0.000	0.137	0.137

N=4172,CFI=0.923,AIC=120917.511,BIC=121113.932,RMSEA=0.092,SRMR=0.035

仮説番号	仮説内容	検定結果
H8(+)	生活に刺激を求める事は生活の満足度と正の相関がある	棄却
H9(+)	生活に楽しさを求める事は生活の満足度と正の相関がある	採択(0.1%水準)

パス図の結果（追加検証）



実線：採択 破線：棄却
*：10%水準
**：1%水準
***：0.1%水準

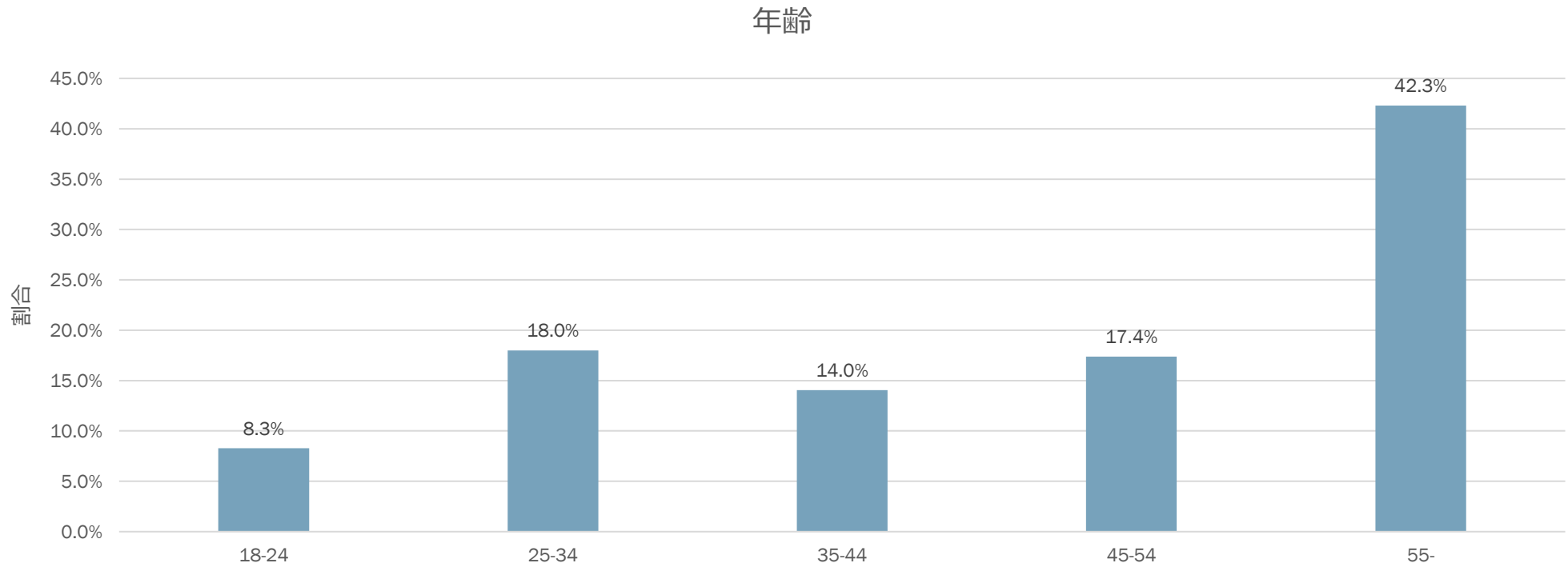
楽しさを求める事と生活の満足度には
正の相関があるということが分かった。

考察

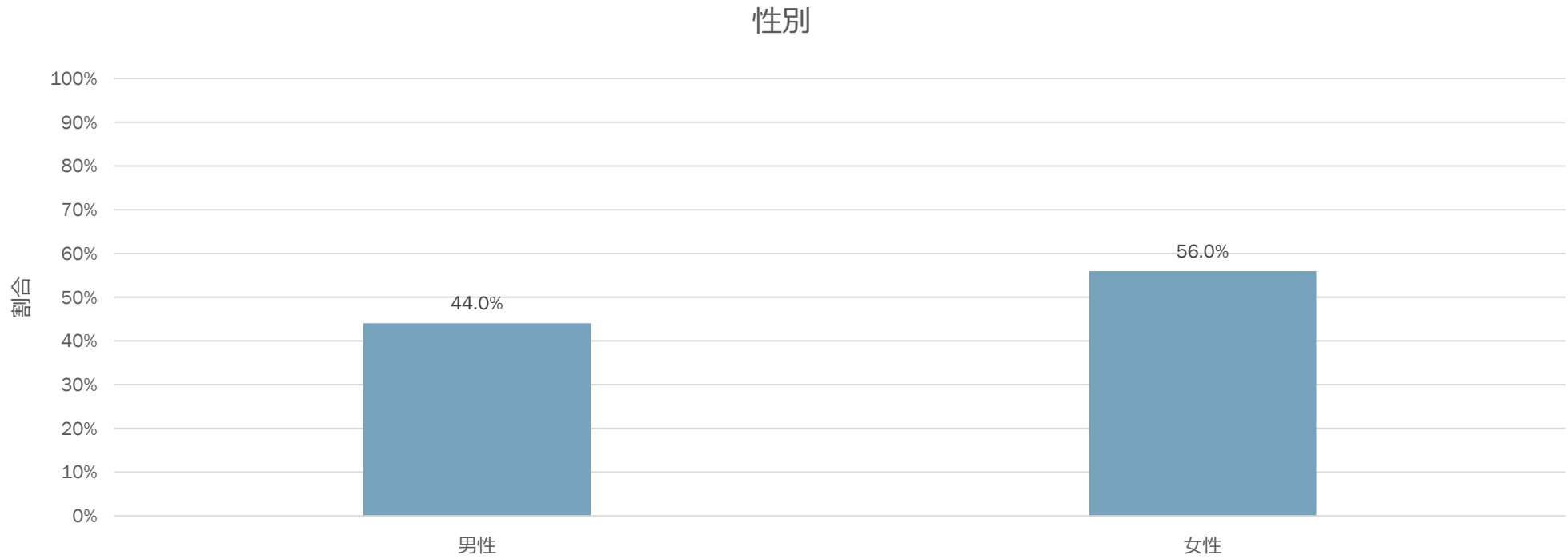
- 4ヶ国全体においては、若い事と海外への旅行意図との間に正の相関が見られたため、海外への旅行プランを打ち出していくことで需要に応えることが出来ると言える。
- 若いことは楽しさを求める事と正の相関があり、また楽しさを求める事と生活の満足度にも正の相関があるため、海外旅行によって楽しさを得られ、それによって生活の満足度が上昇すると訴えていくことが効果的だと考えられる。
- また若い事と生活に刺激を求める事にも正の相関があるため、旅行プランに刺激的なアクティビティを含めることも効果的ではないかと推測できる。

日本における分析

単純集計

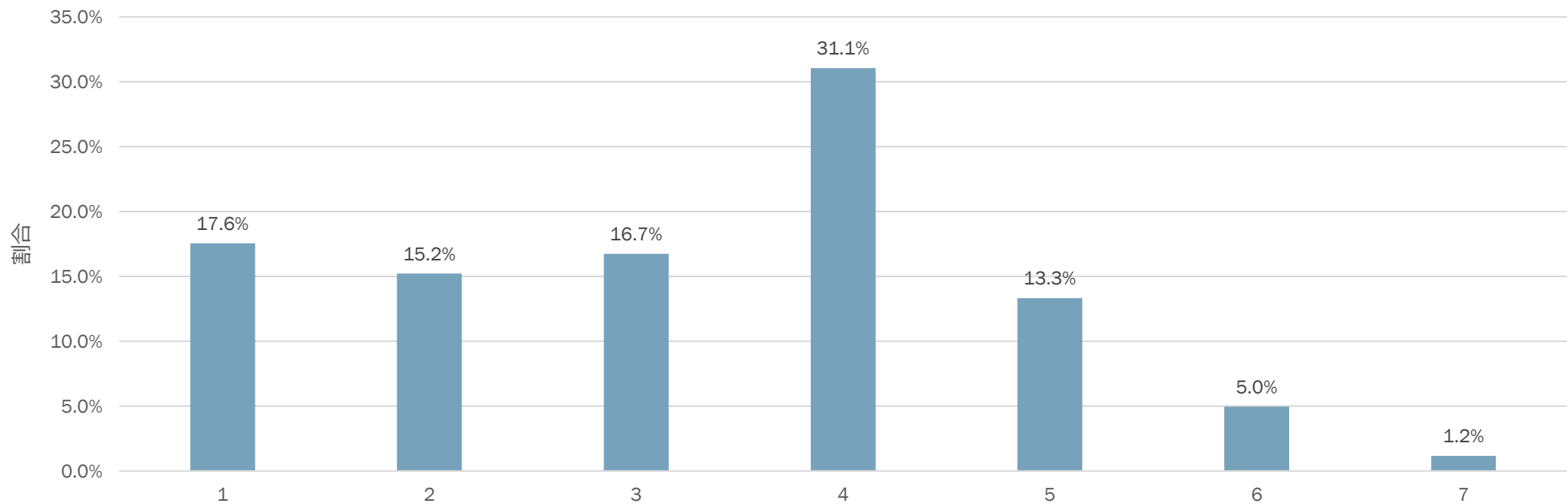


単純集計



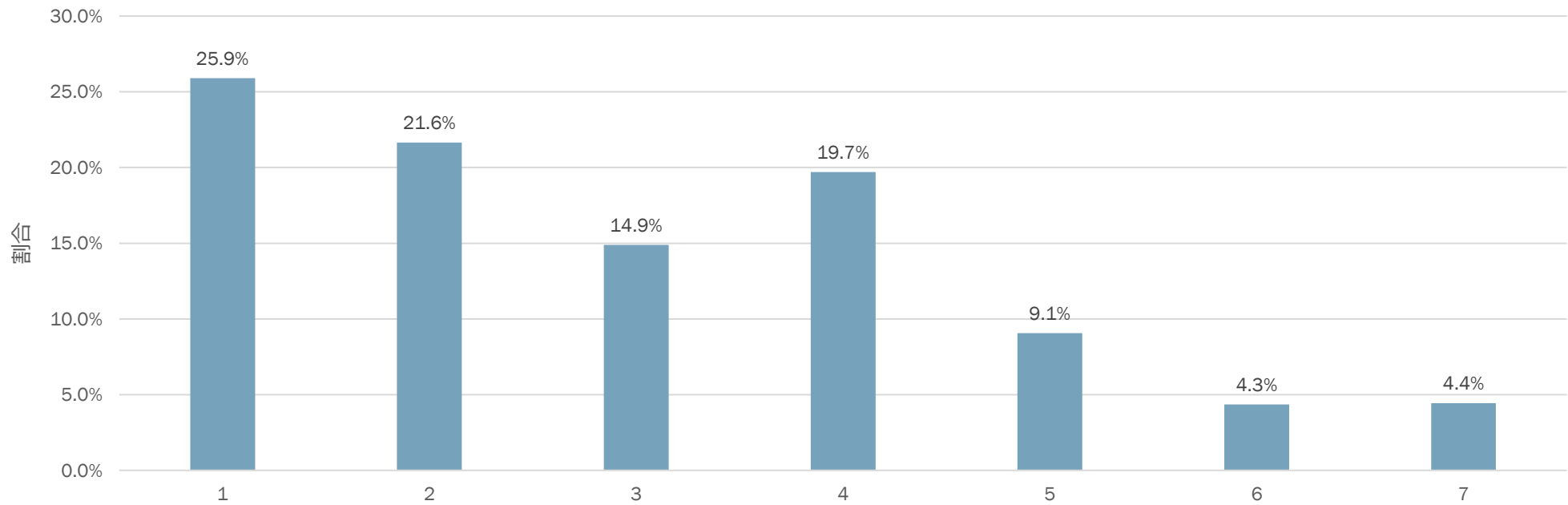
単純集計（旅行意図）

変換期にレジャー目的で国内を旅行するつもりだ



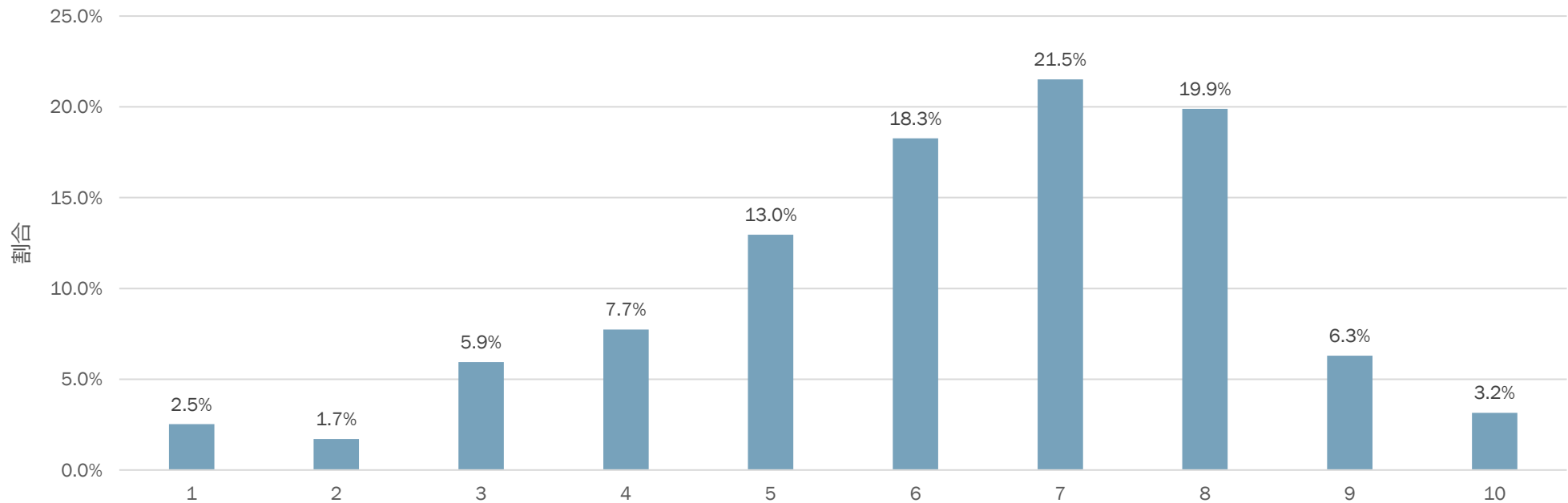
単純集計（旅行意図）

新型コロナウイルスによる渡航中止勧告が解除されたらすぐに海外に渡航するだろう



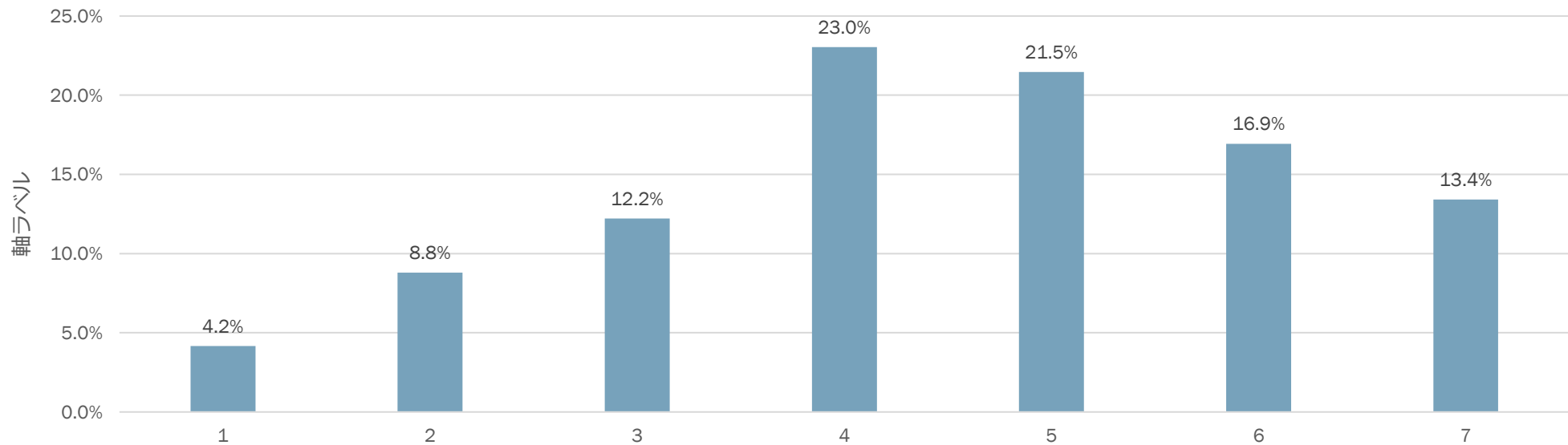
単純集計（消費者特性）

近頃のあなたの生活についてどのくらい満足していますか？

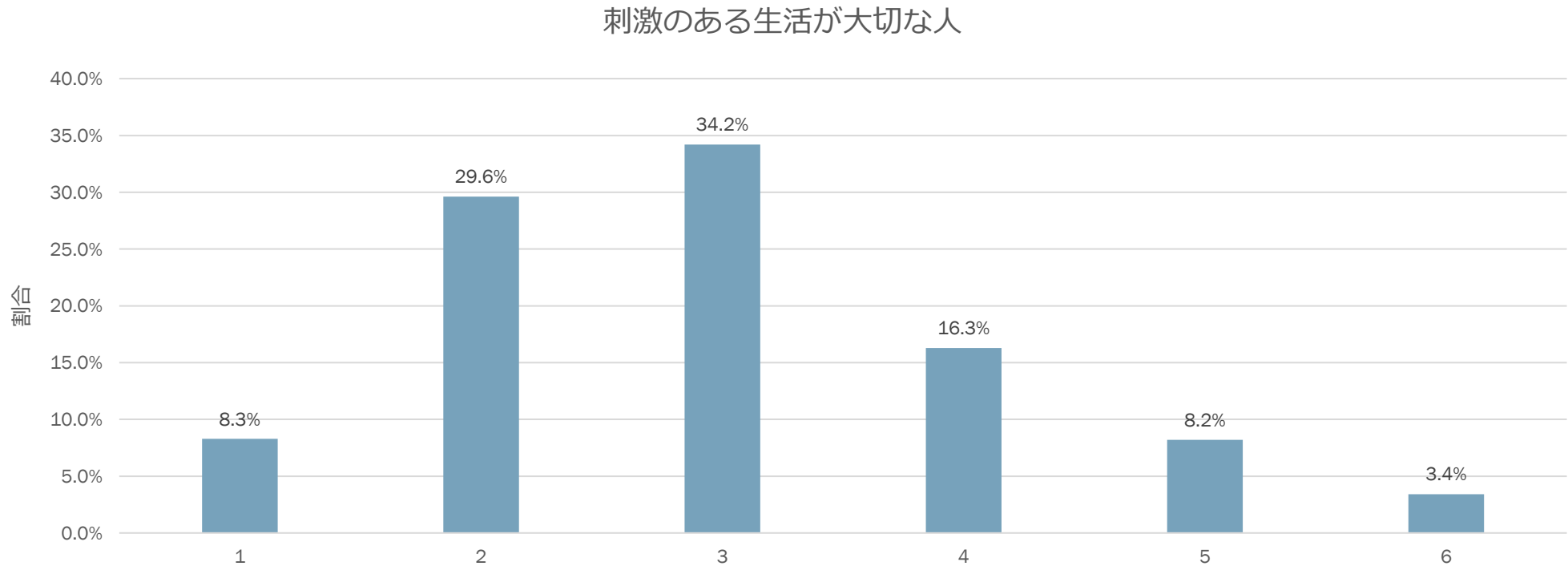


単純集計（消費者特性）

新型コロナウイルスの感染を避けるため、公共の交通機関を利用することを避け、別の方法で移動する、または移動した

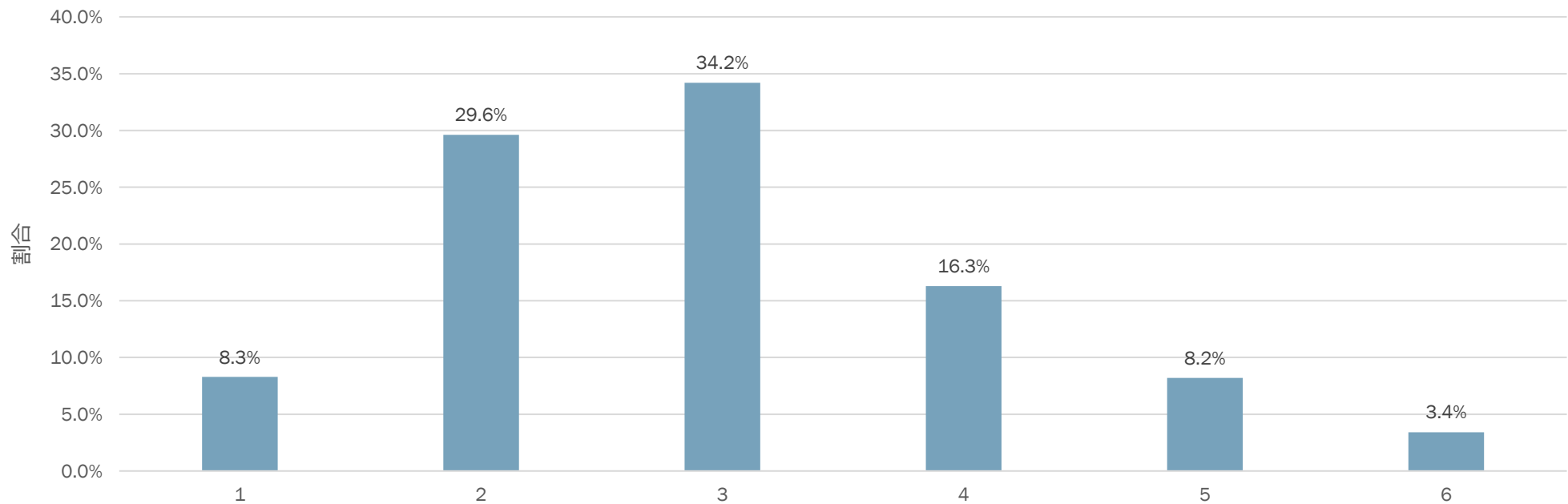


単純集計（消費者特性）



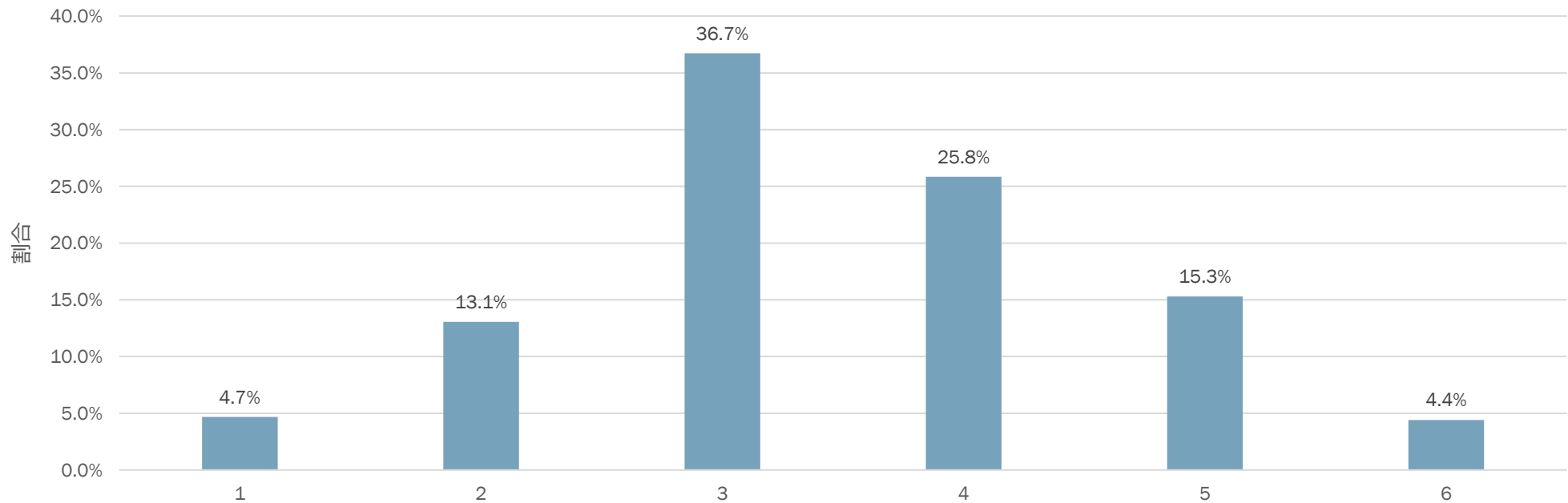
単純集計（消費者特性）

楽しい時間を過ごすこと、自分を「甘やかす」ことが大切な人



単純集計（消費者特性）

求められたルールに常に従うことが大切な人



共分散構造分析：日本

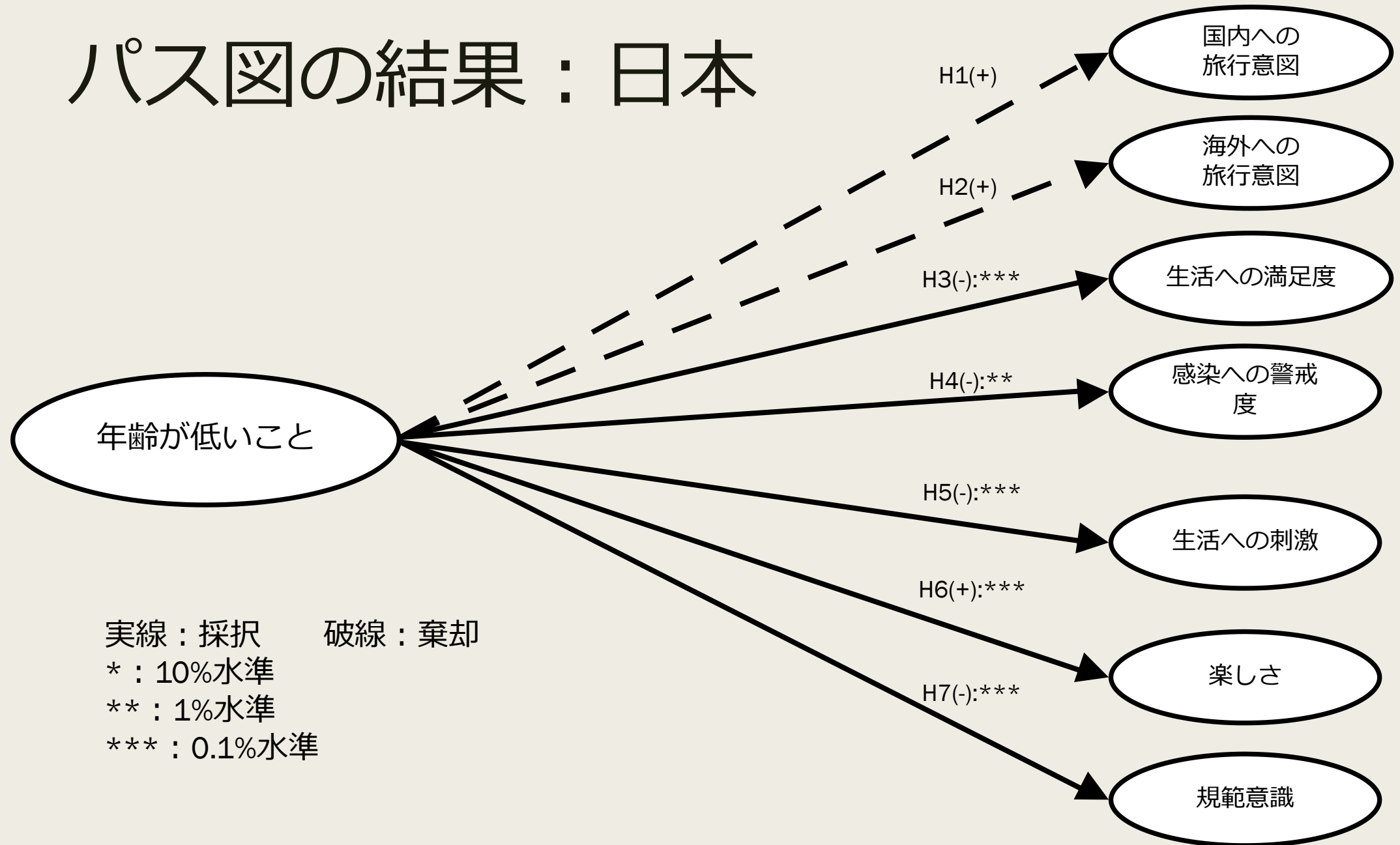
	Estimate	Std.Err	Z-value	P(> Z)	Std.lv	Std.all
国内への旅行意図	0.041	0.032	1.276	0.202	0.038	0.038
海外への旅行意図	-0.019	0.036	-0.510	0.610	-0.015	-0.015
生活への満足度	-0.164	0.042	-3.868	0.000	-0.115	-0.115
感染への警戒度	-0.104	0.035	-3.010	0.003	-0.090	-0.090
刺激を求める事	0.106	0.026	4.123	0.000	0.123	0.123
楽しさを求める事	0.120	0.024	4.922	0.000	0.146	0.146
規範意識	-0.140	0.025	-5.643	0.000	-0.167	-0.167

※表の1列目は、若さを説明変数とした被説明変数となっている

検定結果：日本

仮説番号	仮説内容	検定結果
H1(+)	年齢が低い事と国内への旅行意図には正の相関がある	棄却
H2(+)	年齢が低い事と海外への旅行意図には正の相関がある	棄却
H3(-)	年齢が低い事と生活の満足度には負の相関がある	採択(0.1%水準)
H4(-)	年齢が低い事と感染への警戒度には負の相関がある	採択(1%水準)
H5(+)	年齢が低い事と生活に刺激を求める事には正の相関がある	採択(0.1%水準)
H6(+)	年齢が低い事と楽しさを求める事には正の相関がある	採択(0.1%水準)
H7(-)	年齢が低い事と規範意識には負の相関がある	採択(0.1%水準)

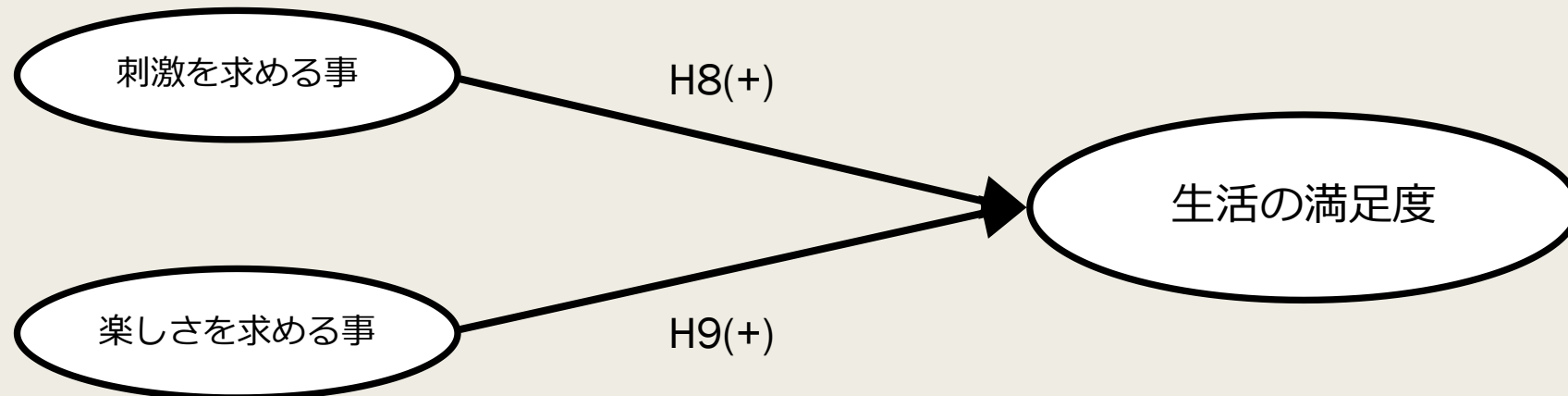
パス図の結果：日本



追加検証・パス図

- 4ヶ国の分析と同じ理由から追加検証を実施

仮説番号	仮説内容
H8(+)	生活に刺激を求める事は生活の満足度と正の相関がある
H9(+)	生活に楽しさを求める事は生活の満足度と正の相関がある



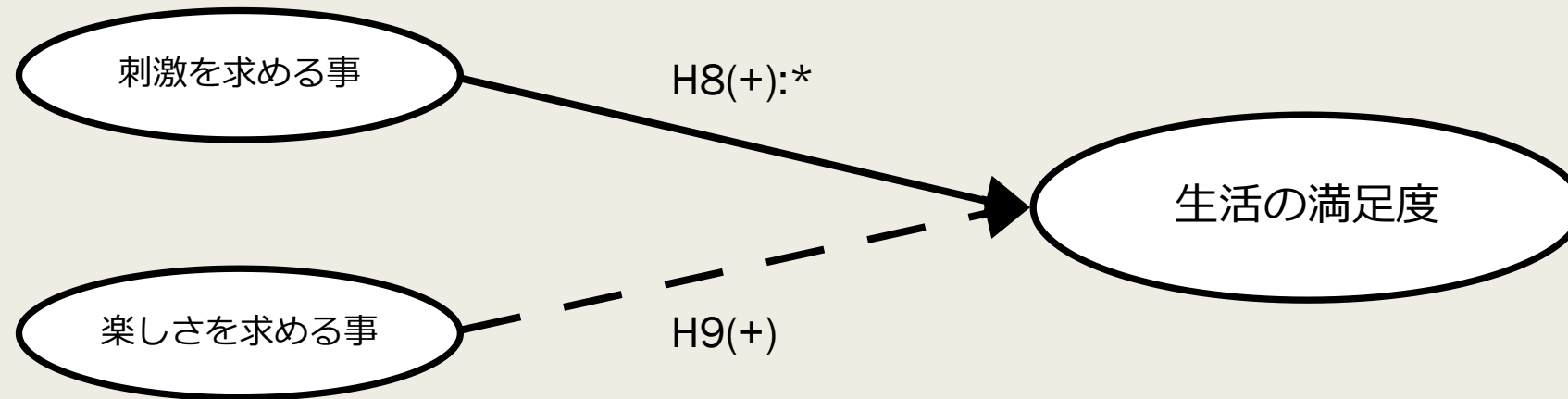
共分散構造分析・検定結果

	Estimate	Std.Err	Z-value	P(> Z)	Std.lv	Std.all
刺激を 求める事	0.095	0.052	1.837	0.066	0.058	0.058
楽しさを 求める事	0.062	0.054	1.152	0.249	0.036	0.036

N=1111,CFI=0.912,AIC=31203.461,BIC=31358.864,RMSEA=0.088,SRMR=0.037

仮説番号	仮説内容	検定結果
H8(+)	生活に刺激を求める事は生活の満足度と正の相関がある	採択(10%水準)
H9(+)	生活に楽しさを求める事は生活の満足度と正の相関がある	棄却

パス図の結果（追加検証）



実線：採択 破線：棄却
*：10%水準
**：1%水準
***：0.1%水準

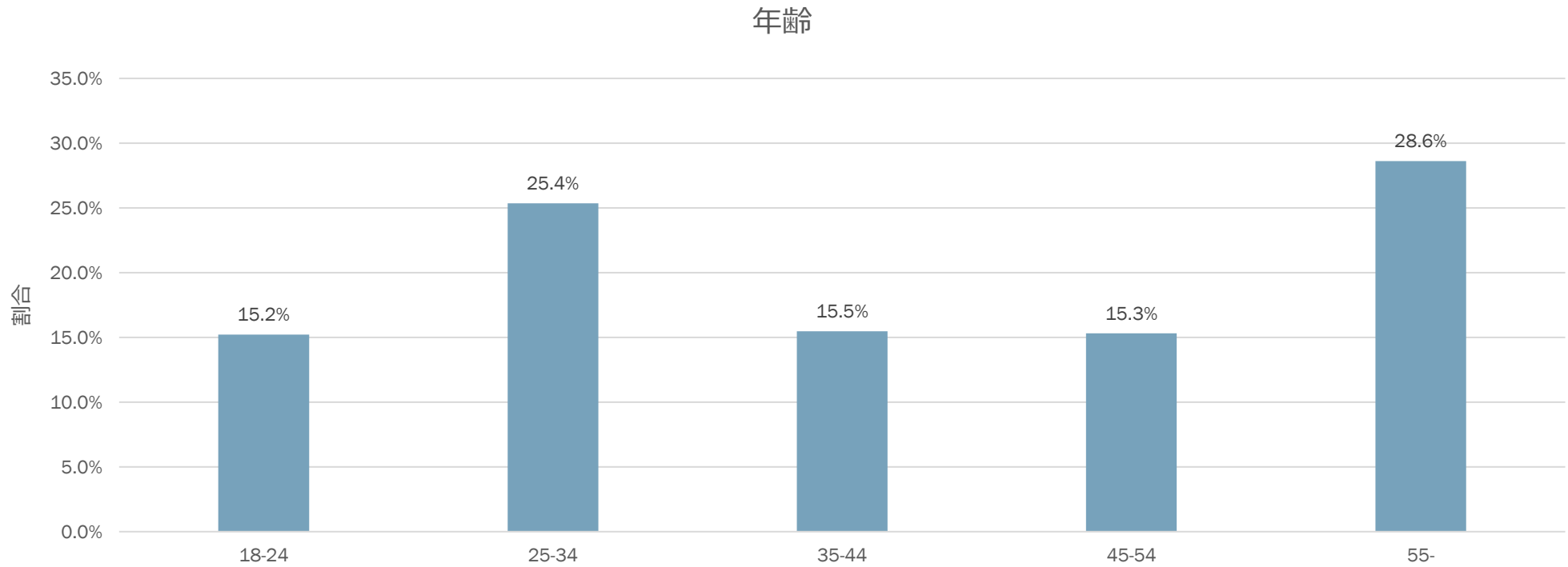
刺激を求める事と生活の満足度には
正の相関があることが分かった。

考察（日本）

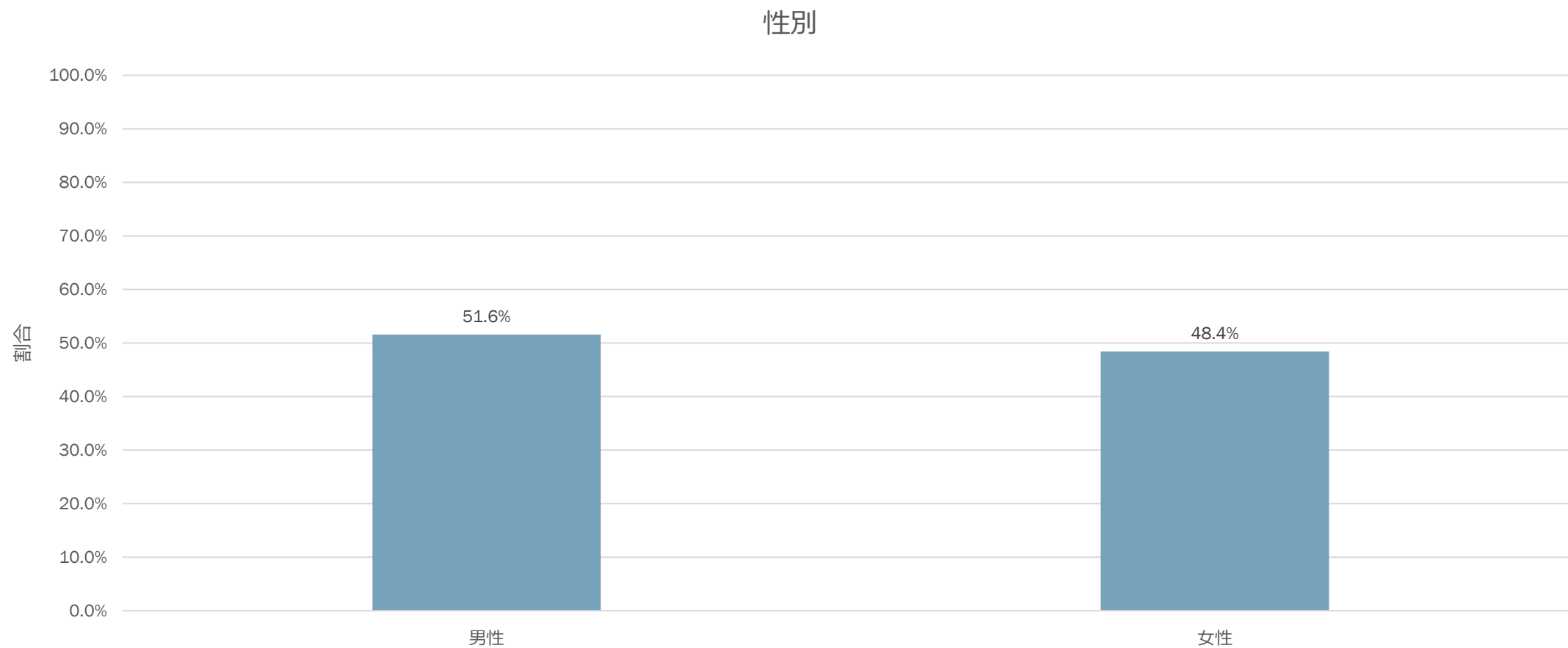
- 日本においては、生活における楽しさや刺激を求める若者が多いということが言える。若いほど生活の満足度は低いことや、刺激を求める事と生活の満足度には正の相関があることから、旅行によって刺激を得られ、それによって生活の満足度を高められるということを明確に打ち出していく必要があるかもしれない。
- 一方で、若いほど感染への警戒度や規範意識は低くなる傾向が見られた。若者に対して旅行を売り出していくうえではこれらの点に留意していく必要があると考えられる。

日本とそれ以外の 3ヶ国との比較

單純集計

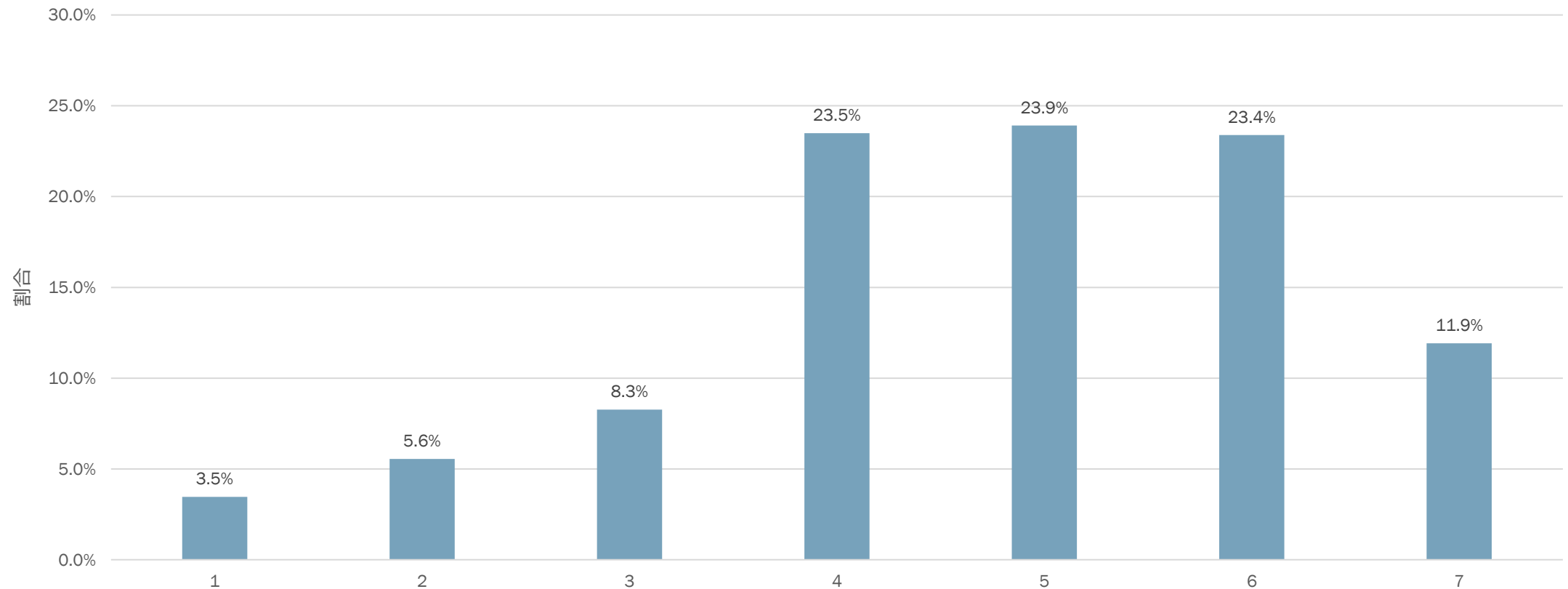


単純集計



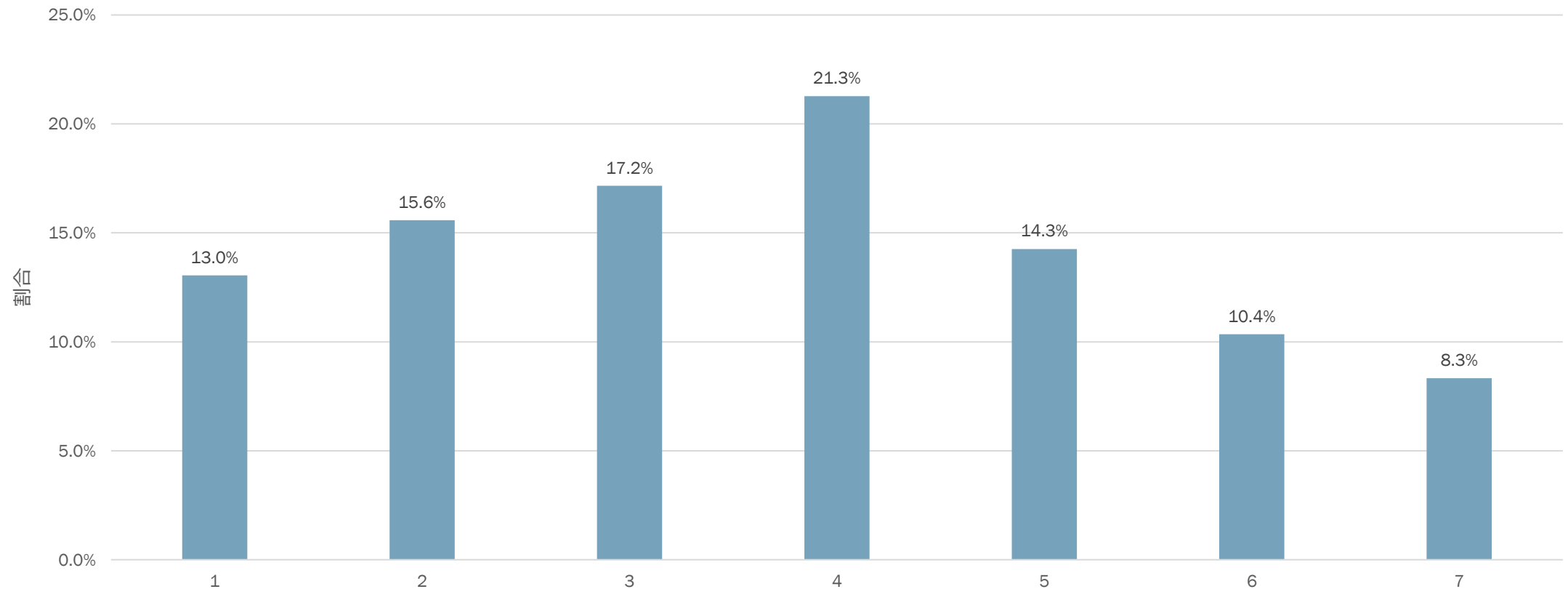
単純集計（旅行意図）

変換期にレジャー目的で国内を旅行するつもりだ



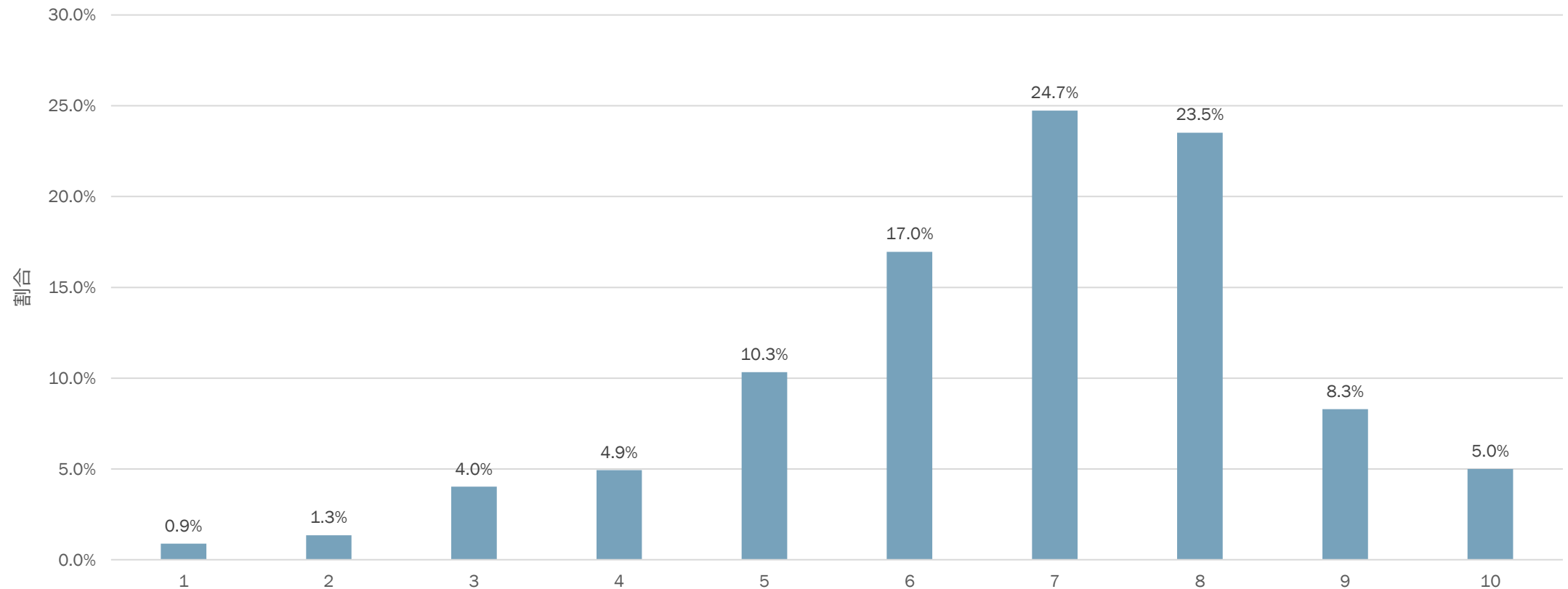
単純集計（旅行意図）

新型コロナウイルスによる渡航中止勧告が解除されたらすぐに海外に渡航するだろう



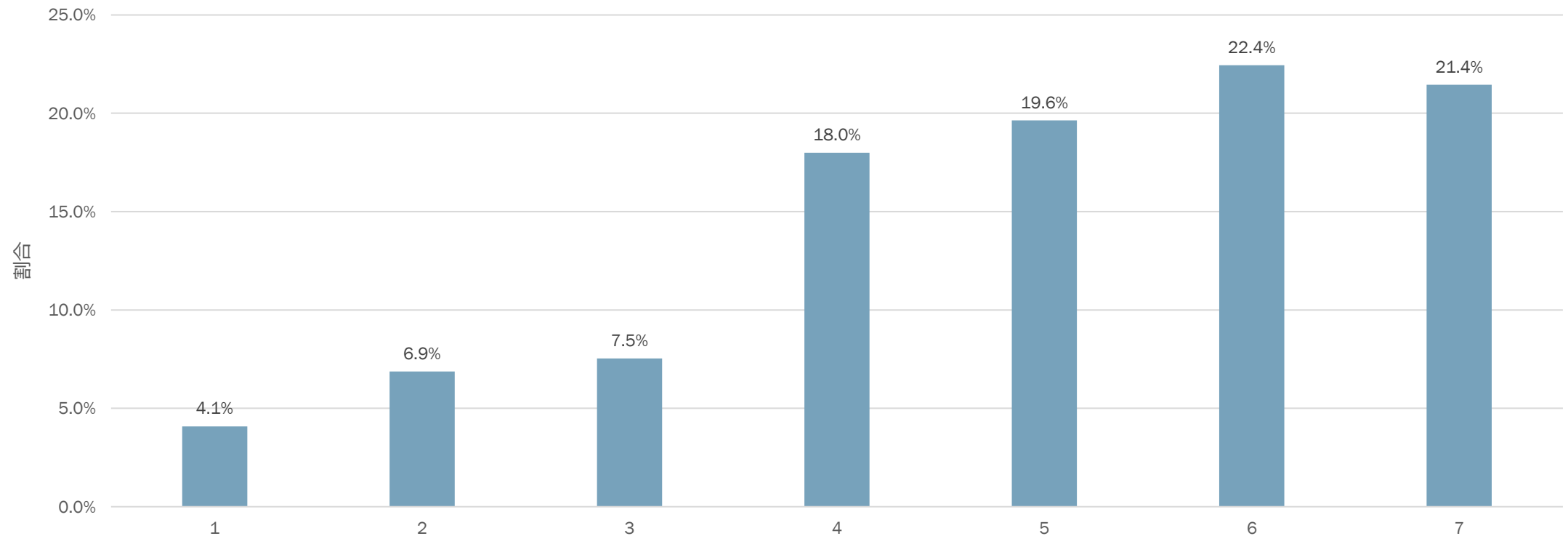
単純集計（消費者特性）

近頃のあなたの生活についてどのくらい満足していますか？



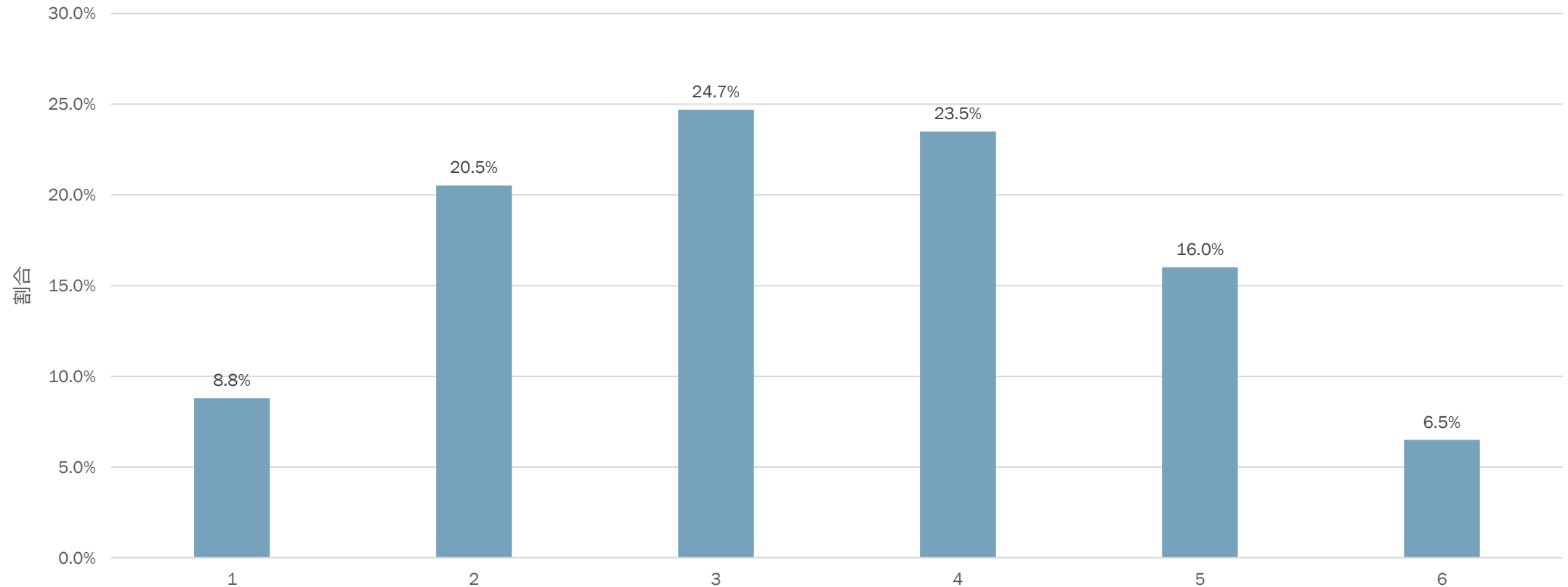
単純集計（消費者特性）

新型コロナウイルスの感染を避けるため、公共の交通機関を利用することを避け、別の方法で移動する、または移動した



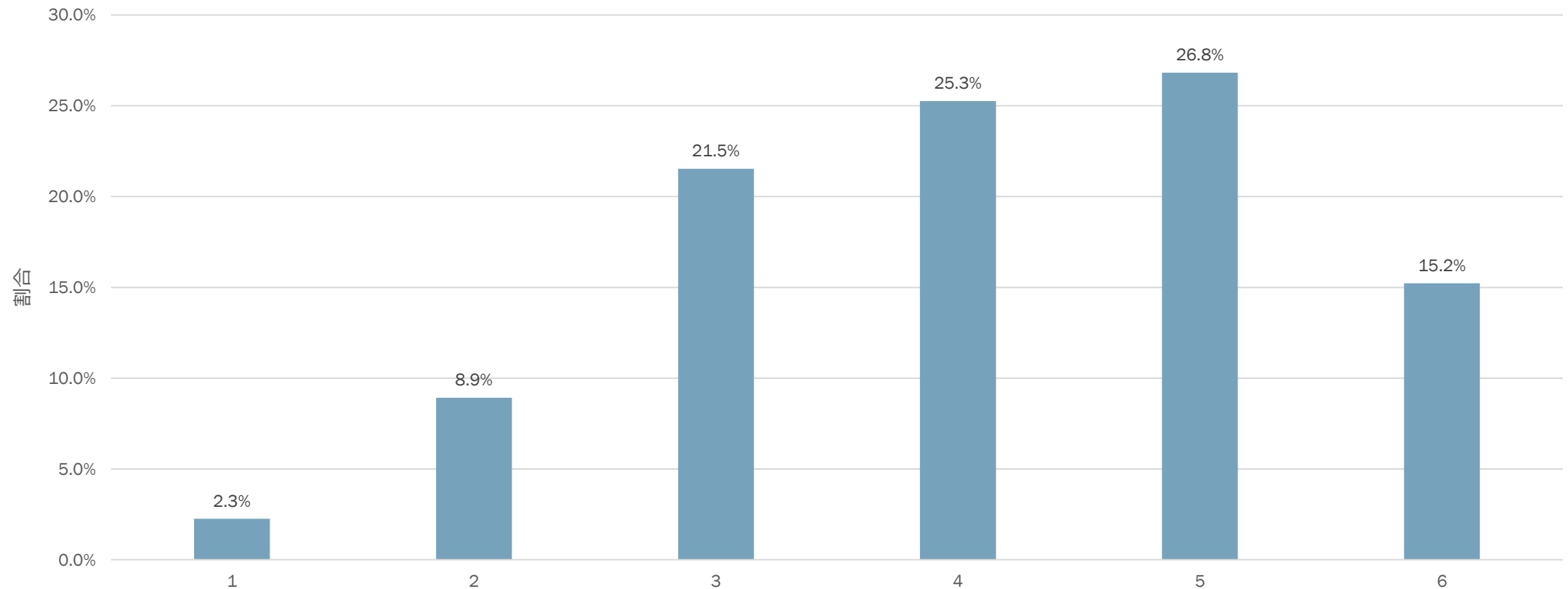
単純集計（消費者特性）

刺激のある生活が大切な人



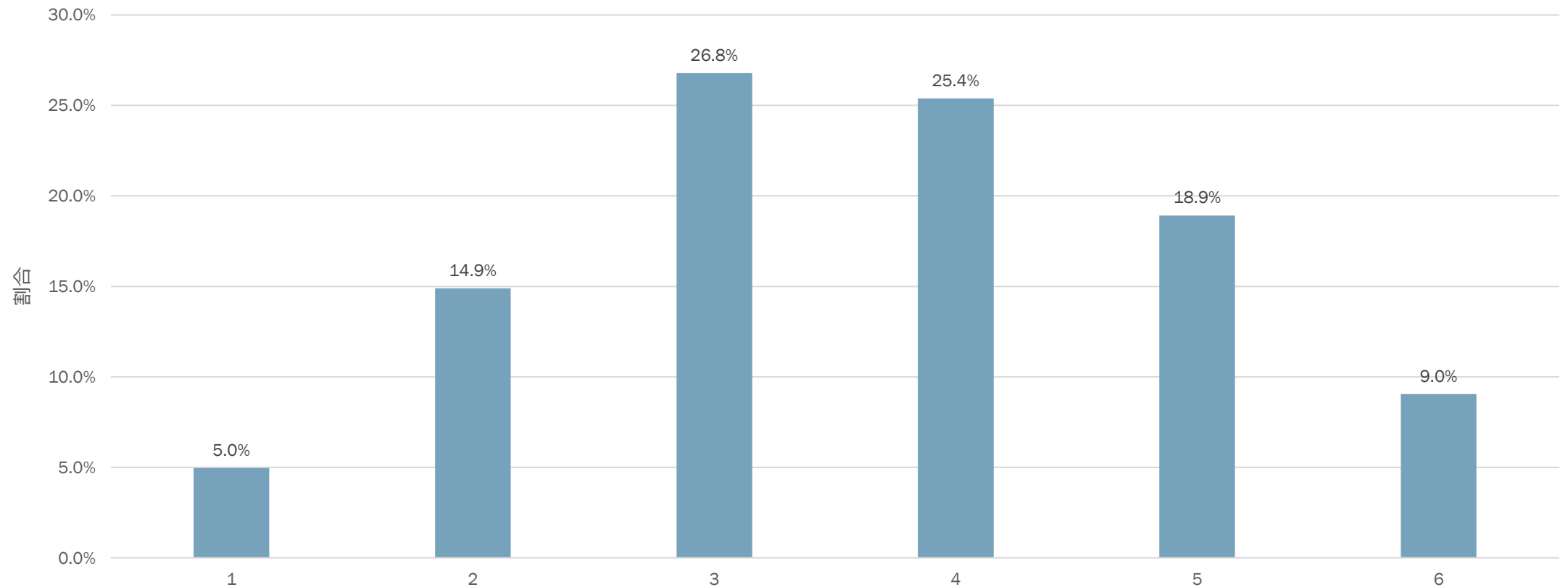
単純集計（消費者特性）

楽しい時間を過ごすこと、自分を「甘やかす」ことが大切な人



単純集計（消費者特性）

求められたルールに常に従うことが大切な人



共分散構造分析：日本を除く3ヶ国

	Estimate	Std.Err	Z-value	P(> Z)	Std.lv	Std.all
国内への旅行意図	0.091	0.019	4.913	0.000	0.088	0.088
海外への旅行意図	-0.004	0.022	-0.171	0.864	-0.003	-0.003
生活への満足度	0.133	0.022	5.986	0.000	0.108	0.108
感染への警戒度	0.000	0.021	0.012	0.991	0.000	0.000
刺激を求める事	-0.300	0.016	-18.643	0.000	-0.319	-0.319
楽しさを求める事	-0.186	0.015	-12.010	0.000	-0.212	-0.212
規範意識	-0.022	0.016	-1.324	0.185	-0.024	-0.024

※表の1列目は、若さを説明変数とした被説明変数となっている

検定結果：日本を除く3ヶ国

仮説番号	仮説内容	検定結果
H1(+)	年齢が低い事と国内への旅行意図には正の相関がある	採択(0.1%水準)
H2(+)	年齢が低い事と海外への旅行意図には正の相関がある	棄却
H3(-)	年齢が低い事と生活の満足度には負の相関がある	棄却(正で有意)
H4(-)	年齢が低い事と感染への警戒度には負の相関がある	棄却
H5(+)	年齢が低い事と生活に刺激を求める事には正の相関がある	棄却(負で有意)
H6(+)	年齢が低い事と楽しさを求める事には正の相関がある	棄却(負で有意)
H7(-)	年齢が低い事と規範意識には負の相関がある	棄却

H3は正で有意(0.1%水準)→年齢が低い事と生活の満足度には正の相関がある

H5は負で有意(0.1%水準)→年齢が低い事と生活に刺激を求める事には負の相関がある

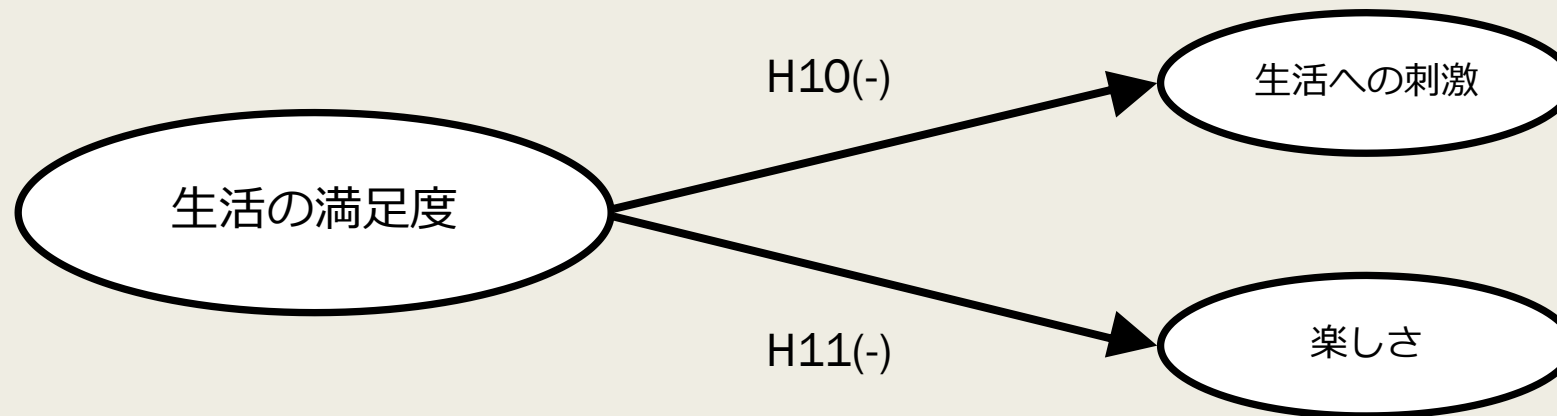
H6は負で有意(0.1%水準)→年齢が低い事と楽しさを求める事には負の相関がある

⇒年齢が低いほど生活に満足しており、刺激や楽しさを求めている？

追加検証・パス図

生活に満足しているほど、刺激や楽しさを求めているのか？

仮説番号	仮説内容
H10(-)	生活の満足度は生活に刺激を求める事と負の相関がある
H11(-)	生活の満足度は生活に楽しさを求める事と負の相関がある



共分散構造分析・検定結果

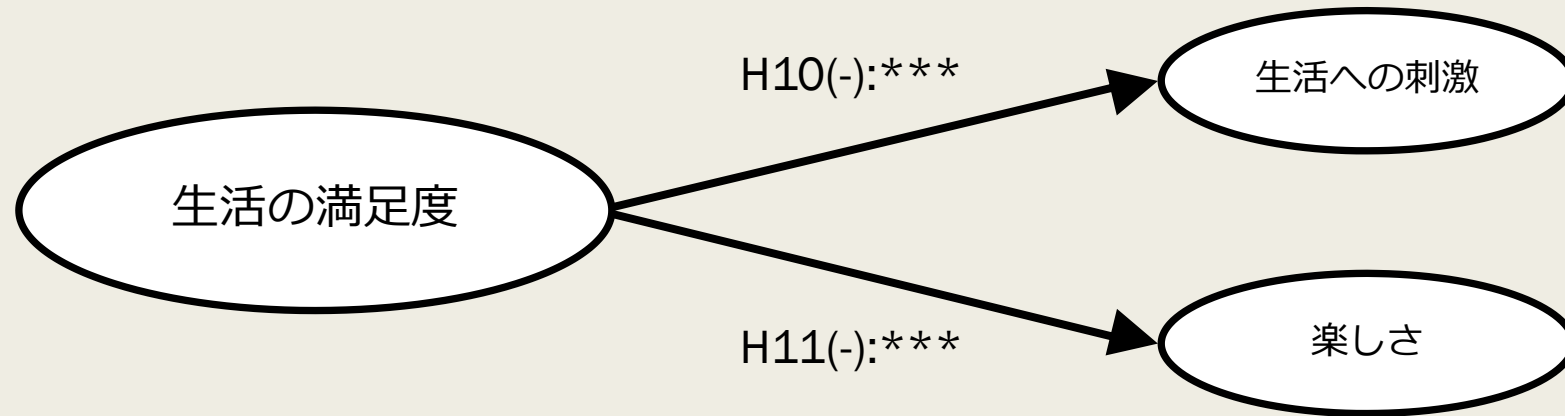
	Estimate	Std.Err	Z-value	P(> Z)	Std.lv	Std.all
刺激を 求める事	0.049	0.014	3.565	0.000	0.064	0.064
楽しさを 求める事	0.099	0.013	7.786	0.000	0.139	0.139

※表の1列目は、生活の満足度を説明変数とした被説明変数となっている

N=3061,CFI=0.627,AIC=88718.747,BIC=88875.436,RMSEA=0.139,SRMR=0.078

仮説番号	仮説内容	検定結果
H10(-)	生活の満足度は生活に刺激を求める事と負の相関がある	採択(0.1%水準)
H11(-)	生活の満足度は生活に楽しさを求める事と負の相関がある	採択(0.1%水準)

パス図の結果（追加検証）



実線：採択 破線：棄却
*：10%水準
**：1%水準
***：0.1%水準

生活の満足度と生活への刺激、および楽しさを求める事との間には負の相関があることが分かった。

日本とそれ以外の3ヶ国の比較

- 日本の若者は生活の満足度が低く、生活の中に刺激を求めているということが分かる。しかし、日本以外の3ヶ国では若者と生活の満足度の間に正の相関が見られ、それによって生活に刺激や楽しさを求めているのではないかと考えられる。
- 日本を除いた3ヶ国では若さと国内への旅行意図の間に相関が見られた。このことから、生活の満足度や刺激、楽しさ以外の若者特有の要素が旅行意図と結びついていると推測できる。
Ex) ストレス解消やリフレッシュ目的？

日本とそれ以外の3ヶ国の比較

仮説番号	仮説内容	日本	日本を除く3ヶ国
H1(+)	年齢が低い事と国内への旅行意図には正の相関がある	棄却	採択(0.1%水準)
H2(+)	年齢が低い事と海外への旅行意図には正の相関がある	棄却	棄却
H3(-)	年齢が低い事と生活の満足度には負の相関がある	採択(0.1%水準)	棄却(正で有意)
H4(-)	年齢が低い事と感染への警戒度には負の相関がある	採択(1%水準)	棄却
H5(+)	年齢が低い事と生活に刺激を求める事には正の相関がある	採択(0.1%水準)	棄却(負で有意)
H6(+)	年齢が低い事と楽しさを求める事には正の相関がある	採択(0.1%水準)	棄却(負で有意)
H7(-)	年齢が低い事と規範意識には負の相関がある	採択(0.1%水準)	棄却
H8(+)	生活に刺激を求める事は生活の満足度と正の相関がある	採択(10%水準)	-
H9(+)	生活に楽しさを求める事は生活の満足度と正の相関がある	棄却	-
H10(-)	生活の満足度と生活に刺激を求める事負の相関がある	-	採択(0.1%水準)
H11(-)	生活の満足度は生活に楽しさを求める事と負の相関がある	-	採択(0.1%水準)

分析のまとめ

各分析結果のまとめ

仮説番号	仮説内容	4ヶ国	日本	日本を除く3ヶ国
H1(+)	年齢が低い事と国内への旅行意図には正の相関がある	棄却	棄却	採択(0.1%水準)
H2(+)	年齢が低い事と海外への旅行意図には正の相関がある	採択(10%水準)	棄却	棄却
H3(-)	年齢が低い事と生活の満足度には負の相関がある	採択(0.1%水準)	採択(0.1%水準)	棄却(正で有意)
H4(-)	年齢が低い事と感染への警戒度には負の相関がある	棄却	採択(1%水準)	棄却
H5(+)	年齢が低い事と生活に刺激を求める事には正の相関がある	採択(0.1%水準)	採択(0.1%水準)	棄却(負で有意)
H6(+)	年齢が低い事と楽しさを求める事には正の相関がある	採択(0.1%水準)	採択(0.1%水準)	棄却(負で有意)
H7(-)	年齢が低い事と規範意識には負の相関がある	棄却	採択(0.1%水準)	棄却
H8(+)	生活に刺激を求める事は生活の満足度と正の相関がある	棄却	採択(10%水準)	-
H9(+)	生活に楽しさを求める事は生活の満足度と正の相関がある	採択(0.1%水準)	棄却	-
H10(-)	生活の満足度と生活に刺激を求める事負の相関がある	-	-	採択(0.1%水準)
H11(-)	生活の満足度は生活に楽しさを求める事と負の相関がある	-	-	採択(0.1%水準)

分析モデルの比較

- 4ヶ国全体の分析ではAICが120745.047、日本の分析では31165.271、日本以外の3ヶ国の分析では31165.271であった。日本の分析と日本以外の3ヶ国の分析のAICの合計値は62330.542であることから、4ヶ国全体で分析を行うよりも二つに分けて分析を行った方がモデルのまとまりが良い事が分かる。
- したがって、日本とそれ以外の3ヶ国では分析対象に違いがあり、4ヶ国全体の分析よりも二つに分けて分析を行った方が結果に信頼性があると言える。

提言

提言（4ヶ国）

若年層向けの海外旅行プラン提供

- 刺激や楽しさに焦点を当てたプランを提供することが必要
- 若者が好むようなアクティビティやアドベンチャーを組み込む
- 海外のその土地でしかできないような事
- 価格設定を低めにする

Ex) 海外の観光地でサーフィンやパラセーリングなどのアクティビティ

提言（日本）

旅行プランを売り出していく際に「楽しさ」と「刺激」の2軸を強調する

- 生活の満足度を上げる手段としての旅行
- 若者が好むようなアクティビティやアドベンチャーを組み込む

旅先でのケアが行えるようにする

- 感染への警戒度や規範意識が低く、旅先での感染リスクなどが高い？
- 旅行中にトラブルが起こった場合に即時に対応できる体制を整えておくなどする必要

Ex) ガイドや専門スタッフ帯同でサーフィンなどのアクティビティ

研究の課題

研究の課題

- 日本の回答者は55歳以上が4割以上を占めており、若者の傾向を正確にとらえられているのかについては疑問が残っている。
- 今回は消費者特性として5つの要素を挙げたが、他の様々な消費者特性に関しても同様の研究を行っていく必要がある。
- また、製品特性（目的地・プラン内容・価格・期間など）についても調査を行っていくことでより良い提言を行うことが出来ると言える。

謝辭

謝辞

データを収集、公開してくださったGluckstad,F.K. (2022)に感謝申し上げます。

また、研究や分析にあたってご指導ご鞭撻を頂いた濱岡豊教授並びに研究会所属の皆様にもこの場を借りてお礼申し上げます。

参考文献

参考文献

- Gluckstad, F. K. (2022), "Risk Perceptions, Attitudes, and Behavioral Intentions to Spend on Experiences in the Post-Corona Crisis: Data from Italy, Denmark, China, and Japan," Data Brief, 42, 108259. <https://zenodo.org/records/5176085>
- [アフターコロナの中で、どこまで回復したか - 旅行・観光 - | その他の研究・分析レポート | 経済産業省 \(meti.go.jp\)](#)
- [国内旅行の回復動向を見る | その他の研究・分析レポート | 経済産業省 \(meti.go.jp\)](#)